

6 高幡地域

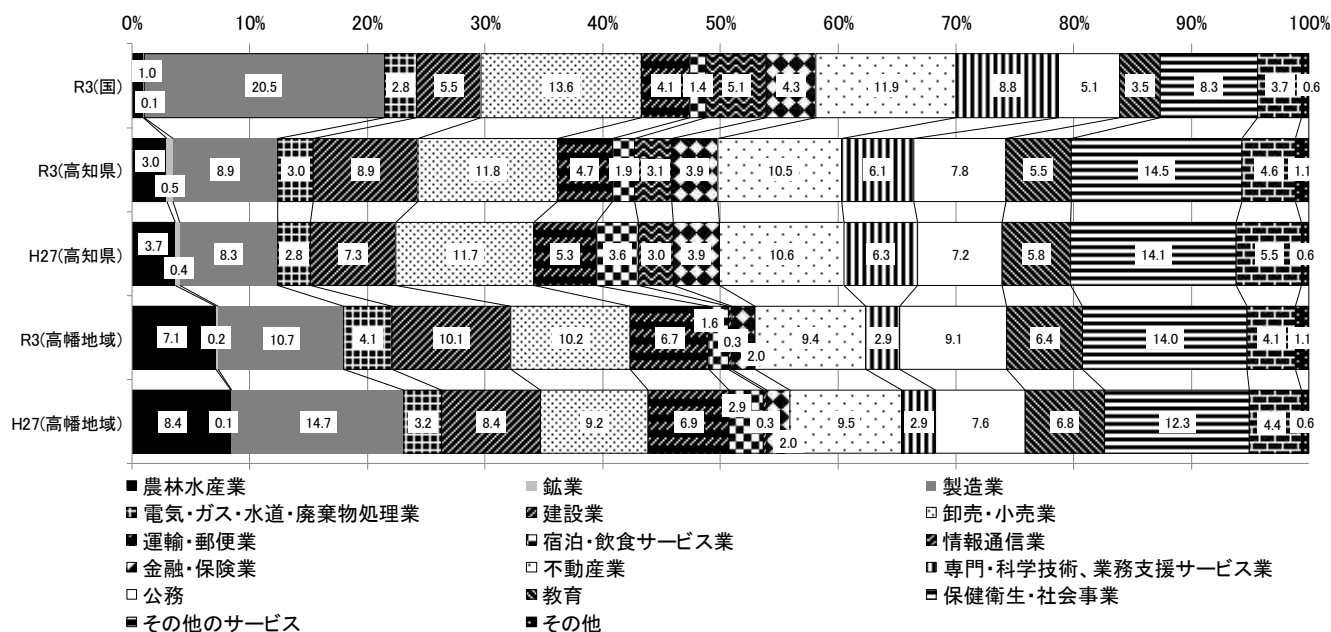
(1) 地域の産業を取り巻く状況

高幡地域は、高知県中西部に位置し、四万十川源流から中流域に至る緑豊かな山々や、黒潮流れる太平洋に面しており、恵まれた自然環境を生かした林業（森林率 87%）をはじめ、日本一の生産量を誇るミョウガや次世代施設園芸団地のトマトなどの施設園芸が盛んです。また、400 年以上続くカツオの一本釣り漁をはじめ、カツオを取り巻く文化、歴史など、脈々と受け継がれてきた漁師町としての営みは、SDGs の観点からも注目を集め、時代の変化に応じて進化を続けています。

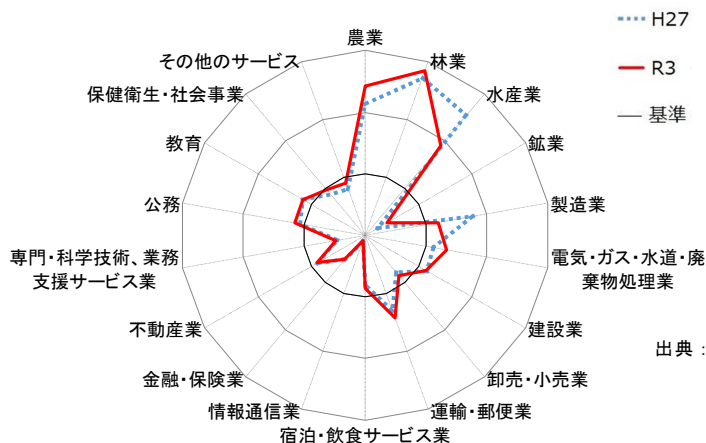
一方で、人口減少は著しく進行しており、令和 2 年の国勢調査では 50,797 人と、前回調査（平成 27 年）と比較して 9.6%減少、生産年齢人口の割合は、約 47%となっています。

高幡地域の令和 3 年度の市町村内総生産（名目）は、162,573 百万円であり、平成 27 年度比較では、約 11.6%減少しています。また、産業別構成比（令和 3 年度）は、農林水産業の割合は 7.1%で、平成 27 年度と比較して、1.3%減少しています。

県内（国内）総生産（名目）の産業別構成比



産業構造の特徴



高知県を比較対象 とした場合	高幡地域		高知県を比較対象 とした場合	高幡地域	
特化係数※	H27	R3	特化係数※	H27	R3
農業	2.13	2.43	宿泊・飲食	0.81	0.86
林業	2.72	2.84	情報通信業	0.10	0.09
水産業	2.54	1.91	金融・保険業	0.50	0.51
鉱業	0.24	0.41	不動産業	0.90	0.89
製造業	1.77	1.20	専門	0.45	0.48
電・ガ・水・廃	1.13	1.34	公務	1.07	1.16
建設業	1.16	1.14	教育	1.17	1.16
卸売・小売業	0.78	0.86	保健衛生	0.87	0.97
運輸・郵便業	1.30	1.43	その他サービス	0.80	0.90

※特化係数：高幡地域の経済活動ごとの構成比を高知県と比較し、高知県から見た相対的な経済活動構成比の大きさを表す指標。

出典：市町村経済統計（高知県）、国民経済計算（内閣府）

農業分野

施設園芸では、さらなる収量増を目指してデータ駆動型農業を進めています。また、担い手対策として、就農しやすい環境の整備、スマート農業の推進、基盤整備による優良農地の確保を進めています。

畜産業では、県内産豚肉の7割以上を生産している四万十町のブランドポークや梶原町産のキジなど、生産から加工、流通販売に至る一貫した取り組みを進めており、雇用の創出や付加価値の向上につながっています。

林業分野

高幡地域で戦後植林されたスギやヒノキの人工林は、現在その約8割が50年を超え、本格的な利用の時期を迎えています。

そのため、森の工場の拡大による事業地の確保や、高性能林業機械の導入並びに路網整備等、効率的な施業による原木生産の拡大に取り組むとともに、将来にわたって地域の豊かな森林資源を循環利用していくため、再造林の取り組みを進めています。

また、木質バイオマス発電施設の整備や木質ペレット工場の拡張など、脱炭素システムの構築、再生エネルギーの利活用を促進していきます。

水産業分野

生産量の減少、資材や飼料の高騰により、厳しい経営状況が続いていますが、処理能力と衛生管理を強化した水産加工場の整備により、養殖魚の付加価値の向上や販売強化が図られ、担い手の確保・育成を行いながら、生産者と連携して地場産業の継続に取り組んでいます。

商工業分野

人口減少等により、商店街や小売業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、製造業の産業構成比も以前に比べて低くなっています。

地域の商業に活力を取り戻すため、空き店舗の有効活用などに取り組むとともに、観光資源としての視点も加えて中心市街地の活性化に取り組んでいます。また、農林水産物などの地域資源を活用した加工品の製造では、加工施設の整備が進み、道の駅などにおける販売促進、商談会出展等による地産外商の取り組みも進んでいます。

観光分野

全国的にも貴重な地形の四国カルストや、暮らしとともに大切にされてきた清流四万十川、スケールの大きい太平洋などの豊かな自然やバラエティに富んだ食をはじめ、龍馬脱藩の道、津野山神楽、漁師町など、歴史的・文化的遺産が多く、魅力的な観光資源に恵まれています。高幡5市町の広域観光組織「(一社)奥四万十高知」による効果的な情報発信や食、自然体験など、観光資源を組み合わせた周遊促進による滞在型観光の推進を図り、交流人口の拡大と地域経済の活性化を目指して取り組んでいます。

(2) 地域アクションプランの概要

当地域では、一次産業分野を中心に、デジタル化やグリーン化などを通じて生産体制の強化に取り組むとともに、地域資源を活用した商品開発や販売拡大など、地産外商の取り組みを強化していきます。

また、地域地域の魅力ある観光資源を生かした周遊促進及び滞在時間の延長を図り、地域経済の波及効果を意識した取り組みを進めます。

併せて、県と市町が連携し、各産業分野で取り組む中長期の施策と連動しながら、移住・定住の促進や、担い手の確保・育成に取り組んでいきます。

農業分野

四万十町では、栗や芋など四万十川流域の資源を活かし、生産者と加工事業者の連携による6次産業化の取り組みを拡大しています。さらに、担い手育成を含め、中山間地域の持続可能な農業として、所得の向上と雇用の創出を図ります。

また、有機栽培を行う生産者と流通販売者との連携による地産外商や、特色ある商品づくりの取り組みも始まっています。

畜産関係では、四万十ポークや梶原町産キジのブランド化に向けて、安定的な生産体制の確保や販売拡大に取り組んでいきます。

林業分野

梶原町では、林業を核に、次世代に引き継ぐより良い環境づくりと経済の循環といった幅広い視点で、森林資源の活用や付加価値の創造に取り組み、町有林の伐採から再造林、再生可能エネルギーの地産地消化を図るとともに、持続可能な経営に向けて、担い手の育成や環境先進企業との協働、林業経営のイノベーションを図る取り組みを進めていきます。

水産業分野

須崎市産の養殖マダイ等は、加工施設の整備・拡張によって、生産体制の強化と加工品のラインナップを増やす等、販路開拓や販売拡大の取り組みを進めています。

梶原町のアメゴは、養殖のデジタル化に取り組み、生産の省力化、効率化を図るとともに商品開発や販路開拓を進めています。

商工業分野

中土佐町のカツオ、津野茶や四万十ポーク、梶原町産のキジや桜など、各地域の特色ある資源を活用した商品の開発や加工場の整備、販路開拓などの取り組みを一層強化します。

また、各市町の道の駅を核とした外商活動を強化するとともに、中心市街地の活性化など、賑わいづくりに取り組んでいきます。

観光分野

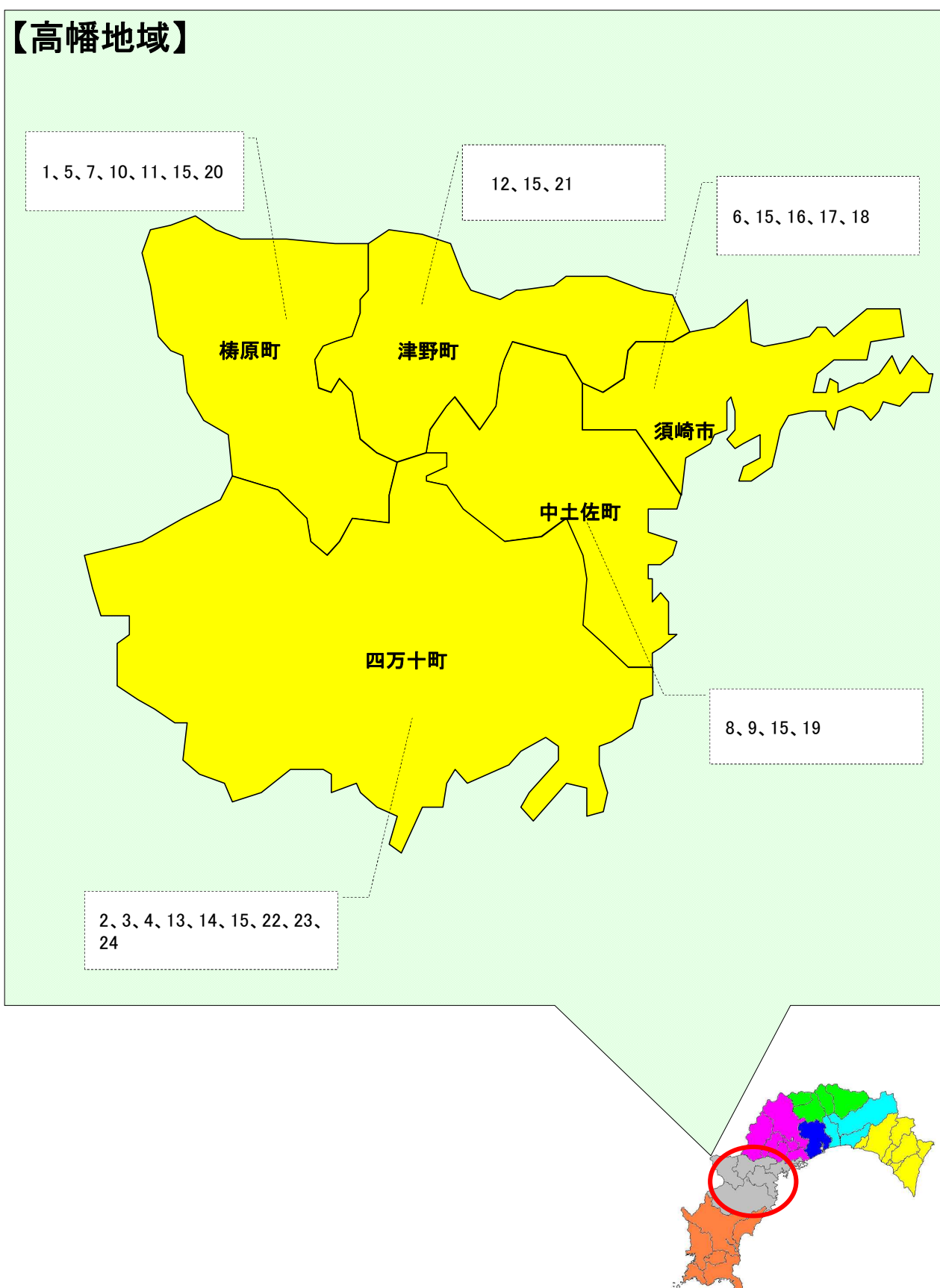
豊かな自然や食、魅力的な歴史・文化を存分に味わっていただけるよう、情報発信や受入態勢の強化、インバウンド対応の充実などを図ることにより高幡地域の魅力づくりを進めていきます。

また、（一社）奥四万十高知を中心に奥四万十ブランドの確立に向け、市町や関係機関と連携しながら周遊ツアーの造成、旅行会社へのセールス活動などに取り組み、交流人口の拡大や滞在時間の延長、観光消費額の増加を目指します。

(3) 具体的な取り組み

分野	No.	項目	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町
農	1	梶原町産キジ肉の販売拡大プロジェクト			●		
	2	四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化					●
	3	四万十町畑作振興プロジェクト					●
	4	四万十ポークのブランド化の推進					●
林	5	梶原100年の森林・人づくりプロジェクト ～森と水の文化を紡ぐ～			●		
水	6	須崎市産養殖マダイ等の販路拡大	●				
	7	ゆすはらアメゴの生産・販売促進			●		
商工	8	「鰹乃國水産」ブランドの創出・販売促進		●			
	9	道の駅なかとさSEAプロジェクト		●			
	10	梶原町地産地消・外商の促進			●		
	11	梶原町産の桜を活用した加工品等の生産・販売拡大			●		
	12	津野町地産地消・外商推進プロジェクト				●	
	13	道の駅「あぐり窪川」の機能強化と地域の活性化					●
	14	四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と販売拡大					●
観光	15	高幡地域における広域観光の推進	●	●	●	●	●
	16	須崎市海のまちプロジェクト	●				
	17	浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化	●				
	18	スケートパークを核とした地域の活性化	●				
	19	カツオを起点とした持続可能な観光を主軸とする地域産業の振興		●			
	20	梶原町の体験型・滞在型観光の推進			●		
	21	津野町まるごと体感！観光推進プロジェクト				●	
	22	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり					●
	23	～しまんとがわのまんなか～四万十町観光交流促進事業					●
	24	四万十町観光交流拠点施設の整備					●

【高幡地域】



高幡地域アクションプラン		
分野		農業
AP 名 (実施地域)	No.1 梶原町産キジ肉の販売拡大プロジェクト (梶原町)	
実施主体	◎(株)四万川、梶原町	
AP への位置づけ	H25.9 月	
事業概要	梶原町で生産されているキジ肉の加工品について、安定的な生産体制を確保するとともに町内飲食店での消費の向上を図るとともに、梶原町の特産品として県内外の飲食店や個人への販売拡大、他産地と連携した高知県産キジ肉としての認知度向上の取り組みを行う。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産体制の確立と生産羽数の向上	・熟成用恒温高湿庫・冷凍庫の導入（H27）→産振補助金を活用 ・加工施設の新設、加工用機械の導入（R4）→産振補助金を活用 ・鶏舎の新設（R4）→集落活動センター推進事業費補助金を活用 ・ふ化率の向上を目指し、貯卵庫の導入（R5） ・新たな生産者への研修（R5～） ・複合経営プランの作成、県外移住フェアでの周知活動による新規生産者の確保	【成果】 ・第 38 回 地場産業大賞 奨励賞受賞 ・第 11 回 デイズカパー農山漁村の宝奨励賞受賞 ・生産羽数の増加 R3：1,847 羽 →R5：2,350 羽 ・新商品の開発 R5：1 件 ・新規取引件数 R2：1 件 →R6：2 件 ・鶏舎の数 R3：1 棟 →R5：3 棟 【課題】 ・安定的な生産体制の確保 ・新商品開発及び販路開拓 ・営業力の強化 ・認知度及びブランド力の向上
販路の開拓・拡大	・収支計画を含む事業計画の策定（R3） →産振アドバイザー制度を活用 ・販売戦略、新商品開発の検討（R4）→中山間アドバイザーを活用 ・（一財）高知県産外商公社との連携による営業活動（R4） ・（一財）高知県産外商公社主催の商談会に出席（R6）	
キジ肉消費向上	・いの町本川地区と合同で「土佐のきじ祭り」を開催（R2～） ・高知市内で開催する「ゆずはらフェア」への出店（R4～） ・「ゆずはらグルメリーク」にて、県外有名シェフによるメニュー開発（R4） ・パンフレット、ユニホームなどの販促資材の製作（R4） ・EC サイトのリニューアル（R5）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
販売額	1,160 万円 (R4)				2,655.4 万円

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
生産体制の確立と生産羽数の向上に向けた取り組み ■(株)四万川 ・新規生産者の確保、育成 ・HACCP に沿った衛生管理 ・ふ化率向上のため他産地と連携した生産体制の強化 ・デジタル技術、設備の導入など生産羽数の増加 ・家畜保健所からの指導に基づいた感染症対策 □県（地域本部、家畜保健衛生所） ・各種支援制度の情報共有、関係機関への橋渡し ・ふ化率向上、感染症対策にかかる指導、情報提供					新規生産者の確保と育成 ふ化率向上に向けた現状把握と対策（ふ化機導入等） デジタル技術の導入 衛生管理、感染症対策にかかる指導
販路の開拓・拡大 ■(株)四万川 ・県外飲食店との取引強化に向けた、（一社）高知県産外商公社と連携した営業活動 ・県外商談会等への出展と商品のブラッシュアップ ・見本市、高級飲食店、高級旅館など県外市場への販路開拓 ・産振アドバイザー制度を活用した新商品の開発 □県（地域本部） ・各種支援制度の情報共有、関係機関への橋渡し、伴走支援				県外への営業活動 商品のブラッシュアップ 新商品の開発 販売・PR	
キジ肉認知度向上・消費拡大に向けた取り組み ■(株)四万川 ・いの町本川地区と連携した「土佐のきじ祭り」の開催 ・愛媛県鬼北町、いの町本川地区との連携の検討 ・地元梶原高校との連携 □県（地域本部） ・各種支援制度の情報共有、関係機関への橋渡し				「土佐のきじ祭り」開催 出前授業、生産現場の見学・体験 など梶原高校との連携 3 者連携による取り組みと関係強化	

高幡地域アクションプラン

分野		農業
AP 名 (実施地域)	No.2 四万十流域資源のブランドカを活かした地域の活性化 (四万十町)	
実施主体	◎ 四万十の栗再生プロジェクト推進協議会、◎ (株)四万十ドラマ、四万十町	
AP への位置づけ	H22.4 月	
事業概要	四万十川流域の資源を活かして流域の生産者と加工事業者が連携して、6 次産業化の取り組みを拡大することで、農業者の所得向上と雇用の創出を図り、中山間地域の活性化を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産量の増大	・苗木の補助などにより、栗の新改植を推進（H22～） ・担い手として「しまんと新一次産業(株)」設立（H24） ・栗技術チーム会での低樹高化に向けたせん定技術の普及、特選栗認定の推進（H24～） ・人参芋の栽培を推進する「四万十の芋プロジェクト協議会」を設立（R3） ・茶のオーガニック化を目指した産地づくり（R5～6） →産振アドバイザー制度の活用	【成果】 ・四万十ドラマ雇用者数（加工部） H30：8 人 →R5：20 人 ・新商品開発 R3：8 品 R4：2 品 R5：3 品 ・加工品売上 H30：9,900 万円 →R5：3.9 億円
人材育成	・農山漁村振興交付金を活用した研修プログラム開発、研修プログラムモニターツアーの実施	
施設機械整備とブランド化	・(株)四万十ドラマがカフェを併設した加工場「おちゃくりカフェ」を整備（H25）→産振補助金の活用 ・しまんと新一次産業(株)ベースト工場が完成（H29）→産地パワーアップ事業の活用 ・しまんと新一次産業(株)に高品質ベースト機械導入（R 元）→次世代型ハウス・農業クラスター促進事業の活用 ・(株)四万十ドラマ新工場への加工機械整備（R3） →R2（R3 繰越）新型コロナウィルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 ・商品増産体制の整備、営業体制の強化（R4～5） →産振アドバイザー制度の活用 ・直営販売店（高知市）のオープン（R6.3）	【課題】 ・高齢化等による生産量の減少 ・新商品の開発とブランド化による販路の拡大

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1) JA 栗集荷量 (大正、十和、西土佐)	26.6t (R4)	18.1t		R8	R9 30t
(2) 芋生産量 (四万十の芋プロジェクト協議会)	44t (R4)	43.5t			70t
(3) (株)四万十ドラマ 新規雇用者数	－	2 人			10 人 (R6～9 累計)
(4) (株)四万十ドラマ 加工品販売額	3.4 億円 (R4)				5 億円

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
生産の強化	■ (株)四万十ドラマ ・しまんと流域農業 organic プロジェクトの推進（地域の農業法人との連携による栗・芋等の栽培拡大） ・しまんと地栗植樹プロジェクト（農業部門の立ち上げ） □ 県（高南農業改良普及所等） ・栗：剪定講習会、目慣らし会開催支援 ・芋：病害虫対策の周知、有機農業に関する情報提供	農業部門立ち上げ			
					農業法人との連携による栽培拡大
地域外との交流促進	■ (株)四万十ドラマ ・四万十の人々の日々の営みから学ぶ『しまんと分校』(R7 開校)と連携した研修プログラムの実施 □ 県（地域本部等） ・研修プログラムの実施、運営に関するアドバイザーの活用提案	開校準備		研修プログラムの実施、地域外との交流	
加工流通・販売拡大	■ (株)四万十ドラマ ・生産拡大に向けた施設整備や設備の検討（貯蔵庫、冷凍庫、農作物流通センター等） ・生産性の向上(効率的な生産に向けた機械導入の検討) ・営業体制の強化(商品提案の磨き上げやアプローチ方法の分析) ・自社 EC 販売強化（EC サイトの改良） ・地域資源を活かした新商品開発 □ 県（地域本部等） ・産振補助金の紹介、研修会や支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し			生産体制の拡大・検討	施設整備
					ブランドカ UP に向けた商品展開・開発
					営業体制の強化、PDCA

高幡地域アクションプラン			分野	農業
AP 名 (実施地域)	No.3 四万十町畑作振興プロジェクト (四万十町)			
実施主体	◎ 四万十野菜(同)、(株)ハマヤ			
AP への位置づけ	H28.4 月			
事業概要	有機栽培や特別栽培等の野菜・米を栽培する農業者と連携して、外商活動等を強化し野菜の産地化を進める。また、地域の食材を使用した加工品の製造・販売により地域の農業者の所得向上を目指す。			

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)四万十野菜(同)売上高	1.28 億円 (R5)			R8	R9 1.36 億円
(2)四万十野菜(同)加工品売上高	79 千円 (R5)				1,095 千円

主な取り組み	これまでの主な動き	主な成果・課題
農業者連携の拡大・強化	・「四万十有機部会」を中心とした勉強会の実施（H28～30） ・県外卸売業者の招へい（継続） ・地域野菜ブランドとして「しまんど畑」を旗揚げ（H29～） ・サトイモ、ショウガの出荷調整機械の導入（H30） ・J-GAP 認証の取得（R2～R5） ・四万十町での就農希望者の雇用（R2～） ・現地検討会「有機生姜圃場クリニック」の実施（R2～） ・有機 JAS 認証の取得（R3～） ・有機水稻の試験栽培（R5～）	【成果】 ・四万十野菜(同)への出荷者の増加 H28：4 名→R5：26 名 ・新商品の開発 R2～R5：13 品
	6 次産業化の推進	【課題】 ・有機農業や特別栽培を目指す人材の確保 ・需要に応じた生産力の強化 ・野菜・米及び加工品の販路開拓

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
農業者連携の拡大・強化 ■ 四万十野菜(同) ・栽培技術現地検討会（圃場クリニック）・勉強会の実施、新規有機農業者との連携、就農希望者の研修受入れ ・有機栽培における水稻と野菜による輪作の実践、有機米専用施設・機械導入の検討 □ 県（高南農業改良普及所等） ・栽培技術検討会の開催支援、栽培技術指導、実証ほの設置 ・有機農業及び研修生受入れ・独立等に関する情報提供 連携強化に伴う卸事業の拡大 ■ 四万十野菜(同)、(株)ハマヤ ・有機農産物等にかかる外商活動の強化、輸送システムの検討 □ 県（高南農業改良普及所、地域本部等） ・商談会等の情報提供					
加工商品の販売拡大 ■ 四万十野菜(同) ・商談会等への参加による販売拡大 ・輸出を視野に入れた体制整備（食品安全規格（JFS-C）の取得等） □ 県（地域本部等） ・商談会等の情報提供 加工商品の拡充 ■ 四万十野菜(同) ・マーケットインによる新商品開発と既存商品のブラッシュアップ □ 県（地域本部等） ・商品開発に関する産振アドバイザー制度活用の提案、各種支援制度の情報提供					
			現地検討会・勉強会の開催		
		水稻試験栽培			有機農業者連携による生産・販売
					有機農産物等の外商活動
				営業活動の強化	
				JFS-B 取得	JFS-C 取得
					新商品の開発と磨き上げ

高幡地域アクションプラン		分野	農業
AP 名 (実施地域)	No.4 四万十ポークのブランド化の推進 (四万十町)		
実施主体	◎ 四万十ポークブランド推進協議会、(農)平野協同畜産、(有)渡辺畜産、(株)山中畜産、(農)四国デュロックファーム		
AP への位置づけ	H27.4 月		
事業概要	安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制のもと、関係機関が連携して一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値と収益性の向上を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
ブランド化の推進	・四万十ポークブランド推進協議会設立 (H26) ・四万十町養豚クラスター計画とブランド化の方針を策定 (H26) ・ブランド化に向けた関係者のワークショップ (R 元) →産振アドバイザー制度の活用 ・四万十ポークのロゴマーク決定 (R2) ・外商専用ウェブサイトの開設及び販促ツールの作成 (R3) ・パンフレット作成、地域イベントへの出店 (R5)	【成果】 ・(農)四国デュロックファーム加工品売上高 H30：9,202 万円→ R5：1.8 億円 ・雇用の創出 加工直販所 ((農)四国デュロックファーム) H27：1 人→R5：9 人 養豚農家 ((農)平野協同畜産) H27：0 人→R5：1 人
商品開発と販路開拓	・(農)四国デュロックファーム直営の加工所及び直販所を整備 (H27) →産振補助金の活用 ・(農)平野協同畜産直営の加工所及び直販所を整備 (R4) →産振アドバイザー制度の活用 ・(農)平野協同畜産による新商品開発 (R 5) →商品づくりワーキング (食のプラットフォーム) の活用	
生産基盤の強化	・(農)平野協同畜産の豚舎を整備 (H28～29) →産振補助金の活用 高知県初の農場 HACCP 推進農場に認定 (H28) 四国初の養豚農場 HACCP 認証取得 (R 元) ・(農)四国デュロックファームの豚舎を整備 (R3～4) →大規模畜産施設整備事業費補助金 (県)、畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業補助金 (国) の活用 ・(有)渡辺畜産の豚舎を整備 (R4～5) →大規模畜産施設整備事業費補助金 (県)、畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業補助金 (国) の活用	【課題】 ・四万十ポークの認知度向上 ・伝染性疾病の低減

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1) 四万十ポーク売上高※1	10.4 億円 (R4)			R8	R9
(2) 年間出荷頭数 [うち(株)山中畜産の年間出荷頭数]	25,332 頭 [1,783 頭] (R4)				15.2 億円
(3) 四万十ポーク取扱店舗数※2	2 軒 (R4)				38,696 頭 [4,514 頭]
※1 JA 高知県の取扱高		※2 取扱店のうち、PR に協力いただく店舗数			40 軒 (R6～9 累計)

第 5 期計画における行程表					
事業概要			R6	R7	R8 R9
四万十ポークの PR ■ 四万十ポークブランド推進協議会 ・イベント参加や PR キャンペーン等による四万十ポークの認知度の向上 □ 県 (西部家畜保健衛生所、地域本部等) ・各種支援制度の情報提供、関係機関との橋渡し 地域団体商標の取得 ■ 四万十ポークブランド推進協議会 ・地域団体商標取得に向けた体制等の検討及び課題整理 □ 県 (西部家畜保健衛生所、地域本部等) ・ブランド化促進のための産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供					四万十ポークの PR 活動
商品開発と販路開拓 ■ 四万十ポークブランド推進協議会 ・新商品の開発、催事・商談会等への参加による販路拡大 □ 県 (地域本部等) ・新商品開発に向けた産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供					勉強会開催等による課題整理 取得に向けた取り組み 商品開発と販路開拓
生産基盤の強化 ■ (株)山中畜産 ・豚舎整備 □ 県 (西部家畜保健衛生所等) ・防疫衛生に関するアドバイス、各種補助事業の紹介				施設整備	新施設での飼育
【用語】・農場 HACCP：農場の衛生管理を向上させるため、農場に HACCP の考え方を取り入れ、危害要因を防止するための管理ポイントを設定、継続的に監視・記録を行うことで、農場段階で危害要因をコントロールする手法のこと。畜産分野においては、家畜の疾病等の要因分析を行い、排除または管理する方策の構築、家畜の健康維持の確保、家畜、畜産物の安全性の確保と生産性の向上を可能とする。					

高幡地域アクションプラン		
AP 名 (実施地域)	No.5 梶原 100 年の森林・人づくりプロジェクト ～森と水の文化を紡ぐ～ (梶原町)	
実施主体	◎ 梶原町、梶原町 森林組合、ゆすはらベレット(株)、ゆすはらエネルギー(株)、 (株)KIREcub	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	梶原町の根幹をなす『森林と水の文化』は、森林と水によって形成されてきた「産業の 発展」と、森林と水に留意しながらすすめられる「自然環境の保全」・「生活環境の整 備」、心豊かな町民の生活の中から生まれる「人・食・自然・伝統・文化」である。 この伝統を将来にわたって生かしながら、新たな『森林と水の文化』を形成するため、 森林の有する機能の高度発揮に取り組み、地域内経済の循環、林業経営のイノベー ション、地域人材を育む力を醸成し、町有林の伐採から再造林の実現、再生可能エネ ルギーの地産地消化に取り組む。	

高幡地域アクションプラン		
分野		林業
AP 名 (実施地域)	No.5 梶原 100 年の森林・人づくりプロジェクト ～森と水の文化を紡ぐ～ (梶原町)	
実施主体	◎ 梶原町、梶原町 森林組合、ゆすはらベレット(株)、ゆすはらエネルギー(株)、 (株)KIREcub	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	梶原町の根幹をなす『森林と水の文化』は、森林と水によって形成されてきた「産業の 発展」と、森林と水に留意しながらすすめられる「自然環境の保全」・「生活環境の整 備」、心豊かな町民の生活の中から生まれる「人・食・自然・伝統・文化」である。 この伝統を将来にわたって生かしながら、新たな『森林と水の文化』を形成するため、 森林の有する機能の高度発揮に取り組み、地域内経済の循環、林業経営のイノベー ション、地域人材を育む力を醸成し、町有林の伐採から再造林の実現、再生可能エネ ルギーの地産地消化に取り組む。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
森林と関わる新たな人づくり	◆環境先進企業との協働 ・協働の森づくり協定を締結、森林整備と交流活動、担い手の育成 ◆次代を担う職業人の育成 ・林業ミSSIONの地域おこし協力隊の導入（R3～）	【成果】 ・森林組合原木取扱量 H30：15,704 m ³ →R5：16,500 m ³ ・FSC 認証材の販売量 H30：998 m ³ →R5：900 m ³ ・環境先進企業との森林 づくり協定数 H30:5 社→R5:8 社 ・木質ベレット生産量 H30:1,276t →R5：1,400t ・ReMORI 設立（R2） ・CoMORI 設立（R2） ・KIREcub 設立（R5） ・梶原森林づくり大学構想 （R3） ・木工品開発：6 商品 （R6）
森林資源の循環利用	◆エネルギーの地産地消 ・木質ベレット工場の施設整備 おが粉製造機の導入（H24）→産振補助金を活用、 粉砕機(H30)、燃焼灰袋詰め装置(R3) ◆森林資源の再生産 ・分収造林の競売による主伐の推進と木材の安定供給 ◆木材の付加価値創造 ・FSC 認証材製材品の販売強化 ※林業振興計画の方針策定→産振アドバイザー制度の活用 ・木工品等の開発(R6)	【課題】 ・森林資源の活用促進と 伐採後の再造林 ・木質バイオマス発電所新 設に伴う生産体制の拡充 及び原木供給 ・森林を通じた関係人口 の拡大と林業担い手確保
交流人口の拡大	◆滞在型の観光地域づくりの推進（太郎川公園） ・きつつき学習館の改修（R4） →観光振興推進総合支援事業費補助金（観光資源磨き上げ事 業）の活用 ・キャンプ場の整備、多言語対応サインの設置（R4） →観光施設等緊急整備事業費補助金の活用 ・湿性植物園の整備(R4) →博覧会受入環境等整備事業費補助金の活用 ・太郎川公園リニューアルオープン（R5） ・森林の文化シンポジウム、森林フェスティバル等イベント開催	

指標 指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)林業の新規就業者数	6 人 (R4)				R9 16 人 (R6～9 累計)
(2)町実施の再造林面積	2.08ha (R4)				30ha
(3)森林由来の新商品開 発（もの・サービス）	－				4 品 (R6～9 累計)
(4)木質ベレット生産量	1,446 t (R4)				2,300 t
(5)太郎川公園の利用者 数	8,083 人 (R4)				30,000 人

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
林業担い手の確保 ■ 梶原町、梶原町森林組合 ・地域おこし協力隊等（民間事業体）の確保・育成 ・地域おこし協力隊等（民間事業体）の育成体制の構築 ・退任後の収入確保に向けた森林サービス産業創出の促進 ・半林半 X といった新たな働き方の提案 ・町有林（分収林含む）を主体とした安定的な事業量の確保 □ 林業事務所、地域本部 ・支援制度に関する情報提供、現場指導、取組伴走支援、進捗管理等					
環境先進企業との協働の高度化 ■ 梶原町、梶原町森林組合、ゆすはらベレット(株)、ゆすはらエネルギー(株)、 (株)KIREcub ・環境先進企業の知見と梶原町の資源を活用した森林由来の新商品開発 ・木質ベレットの増産（発電施設の新設、木質ベレット製造施設の増設） ・環境先進企業に対する「梶原町の森林と水の文化」の理解促進（高校生 によるプレゼン、社会見学） ・環境先進企業、高校生・地域おこし協力隊の協働事業の実施 □ 林業事務所、地域本部 ・支援制度に関する情報提供、現場指導、取組伴走支援、進捗管理等					
滞在型の観光地域づくりの推進（太郎川公園を活用した関係人口の創出） ■ 梶原町 ・次世代への森林環境教育の実施 ・体験型イベントやシンポジウムの開催 ・観光協会など関係機関との連携強化 □ 地域本部、林業事務所 ・支援制度に関する情報提供、取組伴走支援、進捗管理等					
太郎川公園の環境整備や機能の充実					
森のようちえん・梶原高校 P T					
森林フェスティバル等イベントの開催					
森林セラピーの推進					
森林の体験プログラムの造成、周遊促進					

高幡地域アクションプラン

分野		水産業
AP 名 (実施地域)	No.6 須崎市産養殖マダイ等の販路拡大 (須崎市)	
実施主体	◎(株)小島水産、○乙女会、高知県漁協深浦支所	
AP への位置づけ	H25.4 月	
事業概要	養殖魚（マダイ）生産者グループと養殖業に関連した民間企業、漁協と連携し、他産地の生産動向や県外大手出荷業者の販売戦略に左右されにくい販売力（自社価格の設定、加工による付加価値の向上、取引量の拡大等）を構築し、養殖業の振興を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
品質の維持・向上と生産量の確保	・新規漁業就業者の確保を目的とした漁業就業セミナーの開催（H27:1 回、R 元:1 回） ・生産者の確保を目的とした新規漁業就業者の長期研修生受入（H29:1 名、H30:1 名）	【成果】 ・雇用の増 （株）小島水産 R4:5 名 →R5:10 名
販路の開拓・拡大	・バイヤーや飲食店事業者を対象とした産地見学会の開催（H28:13 回、H29:2 回、H30:5 回、R4: 2 回） ・県内外商談会への出展（H27:4 回、H28:3 回、H29:3 回、R3: 2 回）	【課題】 ・さらなる販路の拡大に向けた販売促進 ・安定的なマダイ生産に係る生産者の確保
加工体制の強化・新商品の開発	・加工施設の拡張（R3）→ 産振補助金を活用 ・先進的な加工機器（金属探知機、うろこ落とし機、フイレマシン等）の導入（H25～26）→ 革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金等を活用 ・HACCP 研修等の受講（H29～30） ・衛生管理の強化に向け、県版 HACCP 第 3 ステージの認証取得（H30.10 月） ・加工事業の人員拡充による生産能力の向上	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
乙女鯛売上高※	103,909 千円 (R4)				200,000 千円

※会計年度：10 月～9 月(R5.9 月末決算以降は、1 月末決算)

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
品質の維持・向上と生産量の確保 ■乙女会 ・販路拡大等、有利販売の強化による生産者の乙女会への新規加入促進を通じた生産量の増加 □県（中央漁業指導所等）、高知県漁協深浦支所 ・新規漁業就業セミナー等の開催支援、漁業就業フェアの開催及び支援制度等に関する情報提供					後継者及び生産者の確保
販路の開拓・拡大 ■(株)小島水産 ・県内外商談会への出展、ふさと納税返礼品取り扱いや個別の商談等による販路の拡大 □県（中央漁業指導所等） ・県内外商談会等の紹介、商談会の出展等に係る支援制度の情報提供、関係者への橋渡し					新たな販路の開拓・拡大
加工体制の強化・新商品の開発 ■(株)小島水産 ・コンセプトづくり、市場調査（消費者の意見集約）、製造方法等の検討、商品改良や商品化の実現 □県（地域本部等） ・商品化に向けたアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、加工品試作に係る支援制度の情報提供					安定的な加工体制の確保 スタッフの研修
					新商品の開発

高幡地域アクションプラン		
分野		水産業
AP 名 (実施地域)	No.7 ゆずはらアメゴの生産・販売促進 (梶原町)	
実施主体	◎集落活動センター「おちめん」、梶原町	
AP への位置づけ	R3.4 月	
事業概要	梶原町の伝統産業であるアメゴ養殖事業を持続発展させるため、担い手の確保と育成、デジタル技術を導入した最適な養殖環境の構築による安定生産と販売拡大を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産体制の確立・強化	・養殖事業のデジタル化による省力化（R4～） →中山間デジタル化推進補助金の活用 ・孵化施設の整備（R4）→ 中山間デジタル化推進補助金の活用 ・養殖池の整備（R4）→ 中山間デジタル化推進補助金の活用 ・集落活動センター「おちめん」内にアメゴ養殖事業部会の立ち上げ、月一回の情報共有、進捗管理（R4～） ・デジタル化による水温水流監視システムの導入によるデータ取り（R4～） ・初の孵化作業（R4） ・放流事業の復活（R5）	【成果】 ・担い手の確保 R3：1 名 R6：1 名(R6.12 時点) ・放流事業の復活 R5：稚魚 260kg 成魚 450kg ・取引件数 (新商品試作) R3：0 件 →R5：2 件 ・デジタル機器の設置 R4：鳥獣対策監視カメラ、水中カメラ、水位・水温観測機器 【課題】 ・アメゴの安定供給 ・販売・収支計画の見直し ・「ゆずはらアメゴ」の認知度向上 ・人材の確保、育成
販路の拡大	・（一財）地産地消外商公社との連携による商品開発、営業先の獲得（R4） ・営業活動により獲得した販売先と新商品の開発検討（R4） ・財務アドバイザー、広告会社などを構成員とする「ゆずはらアメゴ販売会議」発足（R5～）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高	376 万円 (R5 見込)	397 万円			1,626 万円

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
生産体制の確立・強化 ■集落活動センター「おちめん」、梶原町 ・アメゴ養殖に関わる人材の確保 ・デジタル化により取得したデータを活用した養殖事業の効率化等に向けた取り組み ・販売・収支計画の見直し □県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し					生産者の確保、育成
「ゆずはらアメゴ」ブランドの確立に向けた取り組み ■集落活動センター「おちめん」、梶原町 ・「ゆずはらアメゴ」のブランディングについて、産振アドバイザーを活用したマーケティング戦略の策定を検討 ・ホームページや SNS 等による広報活動 ・「遊友館」等を活用したアメゴ関連イベントの開催 □県（地域本部） ・アドバイザー制度の活用提案 ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し					データの活用による養殖事業の効率化等
					戦略の改善 定期的な販売会議（PDCA）
					SNS 等による情報発信
					イベント等の開催による「ゆずはらアメゴ」の認知度向上
加工商品の開発、販売促進 ■集落活動センター「おちめん」、梶原町 ・県内企業とのコラボ商品の開発・販売 ・PR や営業活動による販路の開拓・拡大 □県（地域本部） ・アドバイザー制度の活用提案 ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し					新商品の開発、販売
					販路の開拓、営業活動

高幡地域アクションプラン			分野	商工業
AP 名 (実施地域)	No.8「鰹乃國水産」ブランドの創出・販売促進 (中土佐町)			
実施主体	◎企画・どくれもん企業組合、中土佐町			
AP への位置づけ	H21.4 月			
事業概要	中土佐町の特産品であるカツオについて、冷凍カツオの価値を高め供給体制を構築し販売拡大することで、地元のカツオの一本釣りの文化や風土を含めたブランド化を図り漁業の活性化を目指す。			

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
安定的な生産体制の構築	・水産加工場の整備（H25～26） →産振補助金の活用 ・水揚げ時期に左右されない安定供給のための冷凍商品の開発・販売（H29～） ・マイナス 50℃で保存可能な冷凍庫の整備（R4） →中土佐町支援制度の活用 ※実施主体の変更 H27～29 中土佐町地域振興公社 H30～（株）SEA プロジェクト R 元～ 企画・どくれもん企業組合 ・タキ製品製造の効率化に向けて真空包装機導入（R6）	【成果】 ・高鮮度ブランドの確立 →「びんひ鯉のたき」、 「びんひめじか」商品化 ・商品開発数 H27～R6(12 月時点) ：5 商品 【課題】 ・安定的な生産体制の構築（仕入れ、製造、販売）
販路拡大	・飲食店を対象にしたカツオのタキ加工の産地視察受入（R2～5） ・中土佐町ふるさと納税業務の受託（R2～4） ・EC サイトリニューアル（R2、R6） →動画・写真の追加、操作性向上 ・事業戦略、アクションプラン作成（R3） →産振アドバイザー制度の活用 ・飲食店への中土佐町食材提供や共同イベント実施による新たな取引先の開拓（R3～4）→中土佐町支援制度の活用 ・大正町市場と連携したイベント「大正町市場かつお祭」の企画・実施（R4） ・冷凍カツオの付加価値向上と EC サイトの新しい顧客創出の戦略づくり（R5）、パッケージ開発と販売促進（R6） →産振アドバイザー制度の活用 ・県内外でのイベントでの冷凍カツオ PR（R5～） ・県外催事等で二次元コード(HP・EC サイト・SNS)付きメッセージカードの配布開始（R6）	・製造コストに見合う販売価格の検討 ・EC サイトの売上向上

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高	3,072 万円 (R4)				5,900 万円

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
安定的な生産体制の構築（冷凍カツオ） ■企画・どくれもん企業組合 ・冷凍カツオの製造のための人員確保 ・タキ製品製造の効率化に向けた施設整備（急速冷凍機等） □県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供		生産体制 見直し	設備 の 導入	人員 確保	運用
		試作 検討			新商品の製造
営業活動の強化 ■企画・どくれもん企業組合 ・冷凍カツオを中心とした商品の販路拡大（首都圏・関西圏） （イベント出店、商談会参加、営業活動） ・販売力強化に向けた EC サイト改修 動線分析、動画・写真の追加、操作性向上、カツオのタキの新しいレシピ開発、食べ方提案など、消費者が購入しやすいサイトづくり ・ブランドイメージ構築に向けた情報の発信 カツオへのこだわり、他社との違い □県（地域本部） ・EC サイト改修に向けて産振アドバイザー制度の活用を提案		関西圏、首都圏を主とする イベント・商談会出展		EC サイト運用・ 随時見直し	継続的なブランド情報発信

高幡地域アクションプラン		分野	商工業
AP 名 (実施地域)	No.9 道の駅なかとさ SEA プロジェクト (中土佐町)		
実施主体	◎(株)SEA プロジェクト、中土佐町		
AP への位置づけ	H21.4 月		
事業概要	「道の駅なかとさ」を拠点に、中土佐町の伝統文化や人をはじめとする地域資源を有効に活用して、中土佐町の魅力向上や町全体の賑わいの創出を図り、所得向上及び雇用の創出など町全体に経済効果を波及させる。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
賑わい創出への展開	・道の駅整備 (H28)、オープン (H29) →産振補助金の活用 ・各種フェアや季節感のあるイベントの開催 (H29～) ・SNS やメディア等を活用した PR (H29～) ・人材育成・魅力ある店づくり (R3) →産振アドバイザー制度の活用 ・ファストフードコーナーの集客力向上 (R5) →産振アドバイザー制度の活用	【成果】 ・道の駅来場者数 H29.7 月～R5.3 月末: 143.1 万人 ・外販による売上額 R5：1,311 千円 ・町内出荷者売上額 H29.7.6～R5.3 月末: 375,201 千円 ・新商品の開発 H29～R5：11 商品
周辺施設との連携強化	・フェリー客の中土佐町への誘客に向けた、道の駅「なかとさ」を拠点とする情報発信強化及び周遊促進社会実験の実施 (R2) ・黒潮本陣との連携企画 (黒潮本陣 25 周年企画と合わせた道の駅クーポン発行など) (R3) ・メジカの新子の情報共有等による誘客の促進 (R4～) ・大正町市場事業者とのイベントの共催 (R4～) ・商店街商品の外販 (R4～)	【課題】 ・商品充実に向けた生産者の確保とその連携 ・中心商店街や町内施設との連携の強化 ・外商活動の強化
地産外商の強化	・新商品開発 (H29～) ・インターネット販売等を活用した外商活動 (H30～) ・EC サイト見直し (R6～) →商品情報の更新・追加、漁師町ソルトの商品動画の掲載 ・JR 四国おもてなし観光列車、久礼駅での物販販売 (R2～4) ・県外イベントへの参加・商談会への出展 (R2～)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高 (施設全体)	3.0 億円 (R4)	3.3 億円			3.9 億円

【用語】・SEA プロジェクト：Shopping (買う)、Eating (食べる)、Amusement (楽しむ) の頭文字から SEA プロジェクトと名付けられた。

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
道の駅商品の充実 ■(株)SEA プロジェクト ・生産者・事業者への声かけや説明会による新たな出荷者の掘り起こし 道の駅の集客促進 ■(株)SEA プロジェクト ・各テナント・生産者との連携によるイベント開催 ・広報・PR 活動 (SNS 等含む) による商品・イベント情報発信強化 □県 (地域本部) ・情報発信 (SNS) について産振アドバイザー制度等の活用を提案					
中心商店街への観光客誘導 ■(株)SEA プロジェクト ・観光客周遊促進に向けた情報共有による連携や共同企画の実施 ・道の駅からの周遊プラン作成、PR ・商品を通じた町内事業者の魅力発信 □県 (地域本部) ・周遊プラン作成に産振アドバイザー制度を提案			コース 調査	周遊 プラン 作成	サービス展開
販売強化 ■(株)SEA プロジェクト ・EC サイト内容見直し (商品情報の更新・追加、購入しやすい操作性を向上) による販売力強化 ・ファストフードコーナーの商品の充実とオープンスペースの活用の検討 ・町内産品を活用した道の駅オリジナル商品による中土佐町の魅力発信 ・外商活動強化による販売拡大 □県 (地域本部) ・各種支援制度の情報提供				町内商品の販売・事業者の紹介	
		修正点 洗い出し	サイト 改修	運用	
		計画 作成	施設 整備	サービス 提供	
				道の駅オリジナル商品開発・販売	
				イベント・商談会・催事への参加	

高幡地域アクションプラン

分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.10 梶原町地産地消・外商の促進 (梶原町)	
実施主体	◎梶原町商工振興協同組合、梶原町、JA 高知県（高西地区）、町内事業者、生産団体	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	生産者の確保や新商品の開発等により、雲の上商品のブランド化など地場産品の商品力を強化するとともに、多くの人が訪れ魅力的に感じられる新たな道の駅を整備し地産地消・外商を一層推進する。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
地場産品の販売促進	・EC サイト「雲の上ストアー」運営開始（R2～） ・集出荷事業の開始（R4：実証、R5：開始） ・友好都市兵庫県西宮市の「西宮市民まつり」への出店 ・関西版県産品商談会への出展（菊芋）（R4） ・直販所出荷おうえん事業（町単）として営業許可申請に係る費用などを補助（R4～） ・道の駅ゆずはらにて自主企画イベント開催（R5） ・梶原町役場産業振興課内に道の駅準備室設置（R3） ・生産者と道の駅運営者による意見交換会の実施（R4） ・道の駅案内看板の設置（R5） ・売の場内に生産者紹介 POP と出荷物を使ったレジビの設置（R5） ・道の駅準備室による先進地視察（R5） ・特産品魅力化 WS の開催による地場産品の商品力向上（町単）（R6～）	【成果】 ・町単独事業による支援制度の創設 「直販所出荷おうえん事業」（R4～） ・新規出荷登録者数 R5：5 名 ・県版 HACCP 第 2 ステージ認証取得 R 元：2 事業者 【課題】 ・売上アップに向けた新たな商品の開発・磨き上げ ・生産者を支える仕組みの構築 ・地場産品を使った「雲の上ブランド」商品の販売強化
地場産品の商品力向上	・県主催食品表示研修や食品表示アドバイザーの活用（H30、R 元） ・6 次産業化アドバイザーの活用（H30） ・土佐 MBA 及び食品生産管理高度化支援研修の受講（H30） ・直販所出荷おうえん事業（町単）として生産基盤づくりや生産者意見交換会などを実施 ・直販所出荷おうえん事業（町単）を活用した生産者による先進地視察研修実施（R5）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
直販所等の販売額	4,832 万円（R4）				1 億円

※直販所等：まちの駅「マルシェ・ユスハラ」、「雲の上の市場」（R11 年度～まちの駅「マルシェ・ユスハラ」、「新たな道の駅」予定）

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
新たな道の駅の整備と体制等の強化 ■ 梶原町 ・運営主体、運営手法の検討選定 ・活用できる支援制度の検討 ■ 梶原町商工振興協同組合 ・既存 EC サイトの見直しと運用 ・新しい道の駅で販売する商品の検討選定 ・出荷者の掘り起こし ・人材の確保、専門家派遣による従業員の意識改革 ・専門家を導入した売り場づくりの検討 □ 県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案					人材育成・研修
					商品選定
					出荷者への支援及び生産者掘り起こし
					売り場づくり
					地場産品の掘り起こし
					PB 商品のブラッシュアップ 商品開発
地場産品の付加価値化による販売促進 ■ 梶原町商工振興協同組合、梶原町 ・食品表示研修など商品の魅力向上に向けた各種研修の受講 ・HACCP に沿った衛生管理の取り組み周知 ・町外への積極的な販促活動による認知度向上 □ 県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案					商品力向上に向けたブランド力の強化
					関係機関と連携した PR 活動

高幡地域アクションプラン

分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.11 梶原町産の桜を活用した加工品等の生産・販売拡大 (梶原町)	
実施主体	(株)SAKURA club	
AP への位置づけ	R5.4 月	
事業概要	梶原町産の桜等を活用して、商品の開発・加工・販売に取り組み、「梶原町産桜商品」の知名度のさらなる向上を目指すと共に、地域での雇用の創出を目指す。	

主な取り組み		これまでの主な動き		主な成果・課題
		取り組みの内容		
新事業の展開		・桜の花をメインとした商品開発 (R4) ・事業展開の検討 (R4) →産振アドバイザー制度の活用 ・県木材産業振興課と連携した桜の葉を活用した商品開発 (R4～) ・加工場の整備 (R5)		【成果】 ・につぼんの宝物高知大会新体験部門グランプリ受賞 (R4) ・食べる JAPAN 美味アワードにて「桜コンフィチュール」認定 (R4) ・新規雇用 1 名 (R5)
既存商品の販路拡大		・各賞のコンテスト、商談会への参加による積極的な営業活動 (R4) ・EC サイトの開設 (R5)		【課題】 ・経営体制の強化 ・安定的な原材料の確保
生産体制の強化		・個人事業主から法人化への移行 (R5) ・即戦力となる人材の確保、育成 (R5)		

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高	230 万円 (R4)	440 万円			1,000 万円

第 5 期計画における行程表						
事業概要			R6	R7	R8	R9
原材料の安定的な確保及び新たな加工場の整備						
■ (株)SAKURA club						
・原材料の安定的な確保に向けた産地化の検討						
・衛生管理に対応した加工場の整備に向けた取り組み						
□県（地域本部）						
・補助金活用提案、アドバイザー制度活用提案						
・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し						
販路の開拓・拡大						
■ (株)SAKURA club						
・消費者ニーズを把握した商品開発						
・県外商談会への参加などの営業活動						
・海外販路への展開を検討						
□県（地域本部）						
・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し						
経営体制の強化						
■ (株)SAKURA club						
・経営体制の強化						
・繁忙期における継続的なパート人材の確保						
□県（地域本部）						
・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し						

高幡地域アクションプラン

分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.12 津野町地産地消・外商推進プロジェクト (津野町)	
実施主体	◎津野町、(有)津野町ふるさとセンター、(株)満天の星、JA 高知県(高西地区)	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	町内の生産者や事業者、観光施設等が連携し、生産・流通・販売を一体的に進めるとともに、新商品開発や販売・PR を通じて道の駅やアンテナショップ等における地場産品の地産地消・外商を推進する。併せて、つの茶ブランドの推進やティーツーリズムの取り組みによる茶製品の販売促進と中山間地域における茶園の景観維持を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
アンテナショップの魅力向上と外商の拡大につなげる商品づくりの推進	・津野町直販機能等強化 (R4) →産振補助金の活用 ・道の駅布施ヶ坂入込者数の増加 R1：138,627 人 →R4：173,531 人 →R5：184,096 人 ・満天の星とふるさとセンターが連携したメニュー開発 R3～5：2 品 ・直販所会員の確保 R4：470 人 うち新規会員 9 人 R5：472 人 うち新規会員 12 人 ・放棄茶園の再生・維持 R3：約 0.8ha R4：約 0.72ha R5：約 0.86ha	【成果】 ・道の駅布施ヶ坂入込者数の増加 R1：138,627 人 →R4：173,531 人 →R5：184,096 人 ・満天の星とふるさとセンターが連携したメニュー開発 R3～5：2 品 ・直販所会員の確保 R4：470 人 うち新規会員 9 人 R5：472 人 うち新規会員 12 人 ・放棄茶園の再生・維持 R3：約 0.8ha R4：約 0.72ha R5：約 0.86ha
出荷量の確保と地産地消の推進	・津野町地域資源「ふる」活用ビジネス事業 (H21～23) →産振補助金の活用 ・営農アドバイザーの配置等による生産者支援の強化充実 ・道の駅布施ヶ坂リニューアルによる販売強化 (R3)、(有)津野町ふるさとセンターの経営強化 (R4) →高知農山漁村発イノベーションサポートセンターの活用 ・各社の連携した取り組みの推進 (R3～) 満天の星から星ふるヴィレッジ TENGU へ土産物供給 ふるさとセンターから星ふるヴィレッジ TENGU へ食材供給 満天の星からふるさとセンターへ食堂メニューの提供 ・つの茶販売戦略に基づき茶製品販売拡大事業 (H27) →産振補助金の活用	【課題】 ・直販所の出荷量の確保 ・地域産品を活用した商品開発 ・アンテナショップの老朽化 ・外貨を稼ぐための町内事業者間の連携体制 ・満天の星ブランドの認知向上 ・茶の新たな販路開拓や PR 活動など、販売体制の強化
「つの茶」ブランドの推進による茶製品の販売拡大	・茶の販売力向上における課題分析 (R2)、「つの茶販売戦略計画」の見直し (R3) →産振アドバイザー制度の活用 ・土佐茶ワークショップの参加 (R4) ・津野町茶業振興計画の策定 (R4) ・つの茶振興協議会の設立 (R5) ・色彩選別機導入による品質向上 (R5)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)主要 2 社の総売上高	3.70 億円 (R4)				R9 4.46 億円
(2)直販所総販売額	1.33 億円 (R4)				1.40 億円
(3)茶製品販売額	3,936 万円 (R4)				4,400 万円

※町内主要 2 社：「(有)津野町ふるさとセンター」、「(株)満天の星」

※茶製品販売額：JA 高知県(高西地区)と(株)満天の星の茶製品販売額の合計

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
アンテナショップのリニューアルによる魅力発信の強化 ■津野町 ・市場調査を踏まえたリニューアル方針の検討及び整備 □県 (高幡地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 地域産品 (津野町産の茶や農産物など) を生かした商品づくり ■(株)満天の星、JA 高知県(高西地区)、(有)津野町ふるさとセンター ・産振アドバイザー制度を活用し、新商品や加工品を開発 ・展示会や商談会、WEB での PR 発信による農産物・加工品の販売拡大 □県 (高幡地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し ・商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用を提案			計画 設計	工事	リニュー ーアル
安心・安全な農産物の出荷と高付加価値化の取り組み ■津野町 ・営農アドバイザーの配置等による生産者支援 (維持、確保) ・荒廃農地を活用した有機農業の取り組みの検討 □県 (高幡地域本部等) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、広報支援 事業者間の連携による地産地消外商の推進 ■津野町、(有)津野町ふるさとセンター、(株)満天の星 ・町内産品の地域内循環の仕組みづくり				生産者支援、 有機農業の取り組みの検討	
茶製品の販売拡大と中山間地域における景観の維持 ■津野町 ・生産・消費販売・文化振興を柱とした「津野町茶業振興計画」の推進 ・ティーツーリズムや観光とタイアップした取り組みの実施 □県 (地域観光課、高幡地域本部等) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し				連携会議の実施、 地域内循環の仕組みづくり	
				「津野町茶業振興計画」の推進	
				ティーツーリ ズム等の 検討	ティーツーリズム等の 実施

高幡地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.13 道の駅「あぐり窪川」の機能強化と地域の活性化 (四万十町)	
実施主体	◎ 四万十町、(株)あぐり窪川	
AP への位置づけ	H24.4 月	
事業概要	道の駅兼地場産業振興センターであるあぐり窪川を拠点とし、地域の特産品の直販やレストランでの提供、観光情報の発信、地域資源を活用した加工品の開発と販売により、地場産業の振興と地域活性化を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
物販・レストランの強化	・季節ごとの企画コーナー設置やレストランメニューの提供（継続） ・四万十町のアンテナショップ「しまんとマルシェ四万十の蔵」の運営（H24～H27） ・農カフェ 40010 でのテイクアウトメニュー提供（～H29） ・「窪川米豚丼」が全国丼グランプリで金賞受賞（H27～30） ・売場のリニューアルにより豚まんコーナーを設置（H31）	【成果】 ■ 雇用者数 9 名（H29）→12 名（R5） ■ 豚まん等販売額 9,300 万円（H30）→1.27 億円（R5）
商品開発・販路拡大	・豚まん・シウマイ等の増産にかかる加工場（第一工場）の整備（R 元）→産振補助金の活用 ・第一工場 県版 HACCP 第 3 ステージ認証取得（R2） ・第一工場への加工機械の導入（R2）→新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 ・第二工場（菓子・スイーツ製造）の改修（R2） ・豚まんのリニューアル（保存料、甘味料、着色料不使用）（R3） ・第二工場 県版 HACCP 第 2 ステージ認証取得（R4） ・地元企業と連携した新商品「ジャン麺まん」の開発（R4） ・中期経営計画の策定、マーケティング戦略の立案と実践（R5～6）→産振アドバイザー制度の活用 ・新商品の開発（丸型餃子、冷凍ハンバーグ）（R6）	【課題】 ・道の駅の人員不足と物価高騰等による経費増加 ・新商品開発による販路開拓と工場の稼働率アップ ・豚まん等のさらなる販路拡大
情報発信機能の強化	・情報発信コーナーの設置（継続） ・創業祭、収穫祭、豚とんフェスタ等のイベント開催（継続） ・海洋堂ホビー館サテライトコーナーの設置（H24～） ・Instagram 開設（H30） ・自社ホームページの改修（R2） ・X（旧 Twitter）及び Facebook 開設（R3）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高	3.15 億円（R4）				4.41 億円

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
物販・直販所の魅力向上 ■ 道の駅あぐり窪川 ・商品や売り場の見直し、季節ごとのフェアの実施、出品者の新規獲得、土産物コーナーと直販所の一元化に向けた検討 「レストラン風人」の見直し ■ 道の駅あぐり窪川 ・提供方法やメニュー等の見直し、受入体制の強化とサービスの向上 □ 県（地域本部等） ・物販・レストランの見直しに関する産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供					魅力的な商品の発掘やフェアの企画 提供方法やメニューの見直し 見直しに応じたサービスの提供と磨き上げ
「あぐりの豚まん」に次ぐ新商品開発 ■ 道の駅あぐり窪川 ・通年販売できる新商品の開発、新たな地域資源の掘り起こし □ 県（地域本部等） ・商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 販路拡大 ■ 道の駅あぐり窪川 ・営業活動の強化（展示商談会等への参加、オンライン商談の強化） □ 県（地域本部等） ・販路開拓に関する産振アドバイザー制度の活用を提案、商談会等の情報提供			定期的な商品開発会議による新商品開発 マーケティング戦略の検討		
SNS 等を活用した情報発信の強化 ■ 道の駅あぐり窪川 ・SNS 等を活用した効果的な情報発信、町内 3 道の駅の連携企画の検討 □ 県（地域本部等） ・情報発信に関するセミナー等の情報提供			関西エリアにおける営業活動の強化 情報発信のための体制構築 研修等によるスキルアップ		効果的な情報発信

高幡地域アクションプラン

分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.14 四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と販売拡大 (四万十町)	
実施主体	◎RELA GREEN VILLAGE(株)	
AP への位置づけ	H31.4 月	
事業概要	生姜の生産者かつ集出荷者としての経験を生かし、病害発生により早期収穫した生姜の受入・加工・販売に取り組む。それらの販路開拓や新規事業の実施により、四万十町産をはじめとした近隣地域の生姜の知名度向上を狙う。 また、町内の生姜農家や企業等と連携し、減農薬栽培に向けた取り組みを進めることで、地域の生姜農家の所得安定・向上や雇用の創出を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
施設整備	・施設整備予定地の選定（H30～） ・施設整備予定地の決定（R3）	【成果】 ・新商品の開発 R 元～R5：3 件 【課題】 ・早期収穫された生姜の有効活用 ・一次処理施設の整備 ・環境負荷低減の加工施設整備の検討
商品開発、販売促進	・ガリ製造用真空パック機器をリリースにて整備（R 元） ・個別包装機器をリリースにて整備（R 元） ・スライサー、フードプロセッサー等を導入（R2） ・シウガのお茶の開発（R2） ・シウガプロテインの開発（R4） ・農業者ネットワーグ「四万十組」による首都圏でのイベント参加（R4～R5）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
売上高※	962 万円 (R4)				1,480 万円

※会計年度：9 月～8 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要			R6	R7	R8 R9
シウガの一次処理施設の整備 ■ RELA GREEN VILLAGE(株) ・計画策定 ・施設整備及び稼働 □ 県（地域本部等） ・産振補助金の活用支援、各種支援制度の情報提供 製造体制及び衛生管理体制の確立 ■ RELA GREEN VILLAGE(株) ・新たな人材の雇用 ・HACCP に沿った衛生管理の実施 □ 県（地域本部等） ・各種研修会への参加呼びかけ			計画策定	施設整備及び稼働	HACCP に沿った衛生管理の実施
商品開発 ■ RELA GREEN VILLAGE(株) ・新商品開発、OEM 製造の開始 ・減農薬等こだわりの原材料の栽培、SDGs を意識した栽培方法の検討 □ 県（地域本部等） ・商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 販売促進 ■ RELA GREEN VILLAGE(株) ・商談会等への参加による販路開拓、イベント開催等による情報発信 □ 県（地域本部等） ・商談会等の情報提供			商品開発	OEM 製造 販売開始	商談会等への参加

高幡地域アクションプラン		
分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.15 高幡地域における広域観光の推進 (高幡地域全域)	
実施主体	◎(一社)奥四万十高知、須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町	
AP への位置づけ	H26.4 月	
事業概要	(一社)奥四万十高知を中心に高幡地域内の観光、自然、食、人などの観光資源を組み合わせて新たな商品を作成するとともに、高幡地域ならではの魅力を情報発信し、セールス活動を行うことでエリアの知名度向上や誘客を促進し、地域経済の波及効果につなげていく。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
観光情報の発信	・奥四万十観光ガイドブック、マップの作成・配布 (R 元・R4) →エリアの情報発信を行うため、観光案内所等に奥四万十観光ガイドブックやマップを配布 ・ホームページの改修と情報発信 (R2・R4～) →域内の宿泊施設に対しアラングを実施し、HP の改修による宿の魅力発信と宿泊促進 ・インバウンド観光大使事業の実施 (R4～) →明徳義塾中・高等学校生をインバウンド観光大使に任命 ・大阪・関西万博に向けた商品造成及び情報発信 (R6) →万博ポータルサイトへの商品掲載	【成果】 ・HP の PV 数 R3：221,715PV →R5：406,994PV ・奥四万十高知留学生インバウンド観光大使委嘱者数 R4：31 名 【課題】 ・ターゲットを明確にしたマーケティング ・万博からのインバウンド誘客 ・県の観光戦略と連動した周遊促進、滞在時間延長の取り組み ・教育旅行誘致に向けた取り組み
地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売	・旅行会社等へのセールの実施 ・域内周遊クーポン事業の実施 (R2、R5) →プレミアム付きクーポンを販売し、域内周遊を促進 ・域内周遊企画の実施 (R3～) →奥四万十泊まらんと巡らんとキャンペーンの実施 ・インバウンドコンテンツの造成 (R3、R5～) →幡多広域観光協議会と連携した訪日外国人向け旅行商品の販売 (R5～) →県と連携したインバウンド向けプレミアムコンテンツの造成 (R5～) ・宿泊施設の販売強化 (R6) →OTA 登録勉強会の開催、利用促進	
広域観光組織の機能強化	・奥四万十広域観光振興計画 (第 2 期) の策定 (R5) ・地域内での連携体制の構築 ・観光客受入態勢の基盤とマーケティング機能の強化	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)主要観光施設入込数	2,081,383 人 (R4)			R8	R9
(2)主要宿泊施設宿泊者数	59,120 人 (R4)				2,646,000 人

※R9 年度目標値は、「第 3 期奥四万十広域観光振興計画」の改定において R9 目標値が設定されるまでの間の、暫定値とする。

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
情報発信及びプロモーションの強化 ■奥四万十高知 ・構成市町や観光協会から観光情報等の収集を行い、ホームページ、SNS、パンフレット等で情報を発信 ・主要マーケットである関西及びインバウンド向けのプロモーションの強化 □県（地域観光課、地域本部等） ・県の政策等の情報提供				関西及びインバウンド向けのプロモーション	
地域資源の商品化及び販売強化 ■奥四万十高知 ・着地型商品(ツアー・体験)の造成・販売強化 ・ホームページを通じた観光商品の販売 ・奥四万十温泉郷スタンプラリー等の実施による周遊促進 □県（地域観光課、地域本部等） ・商品化等の支援				県キャンペーンや旅行トレンドに合わせた商品の造成、販売	
旅行客誘致に向けたセールス活動 ■奥四万十高知 ・各種イベントへの出展による PR 活動 ・クルーズ船向けオプショナルツアーの企画提案 □県（地域観光課、地域本部等） ・商談会等の情報提供				県内外へのセールス活動	
旅行客受入体制基盤・マーケティング機能の強化 ■奥四万十高知 ・組織の DMO 化及び組織体制の充実 ・教育旅行の受入れのための体験事業者やガイド等の観光人材の育成 ・デジタルを活用したデータ分析、マーケティング □県（地域観光課、地域本部等） ・観光客動向データの活用支援				DMO 化	組織体制の充実
				教育旅行受入準備	受入開始

高幡地域アクションプラン		
分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.16 須崎市海のまちプロジェクト (須崎市)	
実施主体	◎須崎市、須崎市海のまちプロジェクト推進協議会、(一社)須崎海のまち公社	
AP への位置づけ	R3.9 月	
事業概要	須崎駅を含む中心市街地を「海のまち」と定義し、コアゾーンとして整備・活用することにより、地域活性化の拠点づくりを行うとともに、「海のまち」を起点にさまざまな事業と連携することで須崎市を拠点に奥四万十エリア全域まで波及効果を促す仕組みづくりを行う。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
海のまち創り・リノベーション	・産官学金等多くの関係者による推進協議会の立ち上げ (R3) ・JR 須崎駅をリノベーションし海のまち須崎駅完成 (R3) ・高知銀行旧 須崎支店をリノベーションした須崎大漁堂オープン (R4) ・エリアへのエントランスとなるランドマーク「須崎百寿門」の完成 (R5) ・旧郵便局跡を活用した須崎サカナ本舗オープン (R5) ・須崎のサカナ文化祭の開催 (R6)	【成果】 ・新たな観光スポットの完成による入込数の増加 R2：5,522 人 →R4：28,089 人 →R5：51,979 人 ・イベント開催による須崎市への来訪者の増加および商店街の活性化 イベントへの参加者 (海のまちマルシェほか) R3：5,110 人 R4：15,300 人 R5：23,300 人 R6：40,430 人 【課題】 ・受入体制の強化 ・人手不足
海のまちの魅力の向上・再発見	・施設完成に合わせたイベントの開催 (R3～) ・起業支援につながる補助制度の創出 (R3) ・富士が浜でのくつろぎポイントづくりの検討 (R3～) ・高知アニメクリエイター 聖地プロジェクトと連動したイベント開催 (R4～) ・地域資源である石灰を活用したイベントの開催 (R4) ・JR 海のまち須崎駅のトイレ改修 (R4) ・空き店舗活用や企業誘致に関する先進地視察 2 件 (R4) ・(一社) 須崎海のまち公社の設立 (R5) ・釣りバカシティブロジェクト関連イベントの開催 (R6)	
エリア外との連携促進	・浦ノ内マリナパークと連携したイベントの開催 ・ふるさと納税制度を活用した財源の確保	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
主要施設等の入込数	28,089 人 (R4)	73,248 人			53,000 人

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
海のまちのブランディング ■ 須崎市 ・エリアごとのブランディング □ 県 (地域本部) ・必要に応じたアドバイザー制度等の紹介、情報収集 まちまるとホテル整備事業の推進 ■ 須崎市 ・事業計画の策定 ・候補物件の選定、設計・整備の実施 □ 県 (住宅課、地域観光課、地域本部) ・空き家対策総合支援事業等の制度活用に向けた支援					
観光クラスター整備事業の推進 ■ 須崎市 ・計画に基づいた事業の実施・ブラッシュアップ ・ソフト事業の検討・実施 □ 県 (地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し					
釣りバカシティブロジェクトの推進 ■ 須崎市 ・釣りバカシティブロジェクトに基づく事業の実施 ・計画のブラッシュアップ □ 県 (地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し					
市内、高幡エリアへの周遊促進 ■ 須崎市、須崎市海のまちプロジェクト推進協議会 ・旅行企画の造成 ・拠点における情報発信方法の検討、実施 □ 県 (地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し					

高幡地域アクションプラン

分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.17 浦ノ内マリNParkにおける交流人口の拡大による地域の活性化 (須崎市)	
実施主体	◎ 須崎市、（一社）須崎市観光協会、NPO 法人すさきスポーツクラブ、 (株) ログスコアレーション、その他関係事業者等	
AP への位置づけ	R4.4 月	
事業概要	須崎市海洋スポーツパーク構想による海洋スポーツの振興と海洋レジャー等の体験型観光を推進するとともに、野外体験施設ログスパークとの連携による交流人口の拡大を図り地域の活性化を目指す。	

主な取り組み		これまでの主な動き		主な成果・課題
		取り組みの内容		
海洋スポーツの振興		・海洋スポーツのメッカを目指した施設整備（H29～R2） →地方創生拠点整備交付金及び高知県スポーツ推進交付金活用 ・地域おこし協力隊制度を活用した専門人材の配置（H29～） ・東京五輪へ向けたホストタウン登録およびナショナルチームによる合宿の誘致（H29～） ・コロナ禍における認定 OWS 大会国内唯一の継続開催（R2） ・東京五輪チェコカヌー代表事前合宿の実施（R3）		【成果】 ・東京五輪チェコ代表事前合宿の実施 ・（公財）日本水泳連盟主催第 97 回日本選手権水泳競技大会 OWS 競技兼 2022 年 OWS 全豪選手権代表選手選考会の開催
体験型観光の推進		・海上アスレチック等の海洋体験メニュー備品整備（H29、R 元） ・（一社）須崎市観光協会の設立による教育旅行の一層の推進（R2） ・体験型観光拠点の整備（R3） →高知県観光施設等緊急整備事業費補助金の活用 ・ログスパークマルシェの開催（R4～） ・公園設備の充実（トイレ、授乳室の設置等）（R5）		【課題】 ・宿泊所の不足 ・県内類似施設との差別化
地域活性化に向けた連携強化		・市内事業者と連携した周遊事業の実施（H30） ・海のまちプロジェクトによる大型マルシェの開催（R4） ・浦ノ内周遊モニターツアーの実証（R6）		

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
主要施設等の入込数	46,958 人 (R5)				63,000 人

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
合宿等のプロモーション ■ 須崎市 ・企業、大学等への PR 活動 ・合宿補助の継続実施、施設外での魅力向上 ・地域おこし協力隊を活用した情報発信 □ 県（スポーツ課、地域本部） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 全国規模の大会誘致 ■ 須崎市 ・競技連盟等へのアプローチ					合宿等のプロモーション
魅力向上・PR の強化 ■ 須崎市、NPO 法人すさきスポーツクラブ、指定管理者 ・情報発信の充実、マスコミ等を通じた PR ・ファミリー層や子どもへの効果的なアプローチ ・体験メニューの磨き上げ □ 県（地域観光課、地域本部） ・広報支援、各種支援制度の情報提供 教育旅行等の受入体制強化 ■ 須崎市、（一社）須崎市観光協会 ・体験プログラムの磨き上げ、民泊事業の検討、奥四万十・高知との連携 □ 県（地域観光課、地域本部） ・各種支援制度の情報提供					情報発信の充実 ファミリー層へのアプローチ
市内周遊に向け広く連携した取り組み ■ 須崎市 ・近隣事業者との連携による等滞在時間延長に向けた取り組みの検討、実施 ・市内事業者との周遊に向けた取り組みの検討、実施 ・海のまちプロジェクトとの情報共有、相互周遊の検討、実施 □ 県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供、関係機関との連携支援					体験メニュー・プログラムの磨き上げ
					民泊事業についての再検討
					滞在延長、周遊促進に向けた企画等の検討・実施

高幡地域アクションプラン			分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.18 スケートパークを核とした地域の活性化 (須崎市)			
実施主体	◎須崎市			
AP への位置づけ	R6.4 月			
事業概要	魅力的な「公共スケートパーク」を整備し、新たなスポーツ分野であるストリートスポーツを通じて、地域の若年層やファミリー層をはじめ、これまで須崎市を訪れることのなかった層に訪れてもらうことにより交流人口の拡大を図るとともに、既存の観光客の滞在時間の延長を図り、地域への経済波及効果を促す。			

これまでの主な動き		主な成果・課題
主な取り組み	取り組みの内容	
魅力ある施設の整備 に向けた協議等	・「須崎市のスケートボードパークをつくる会」から須崎市に要望（R3） ・NPO 法人日本スケートパーク協会と協議（R4） ・基本構想の策定（R4） ・土地所有者との用地交渉（R4～） ・用地候補、施設整備の内容等との関係者間協議（R4～） ・先進地の視察（大阪府松原市「スケボーのまち まつばら」まちづくり戦略）（R5） ・NPO 法人日本スケートパーク協会による設計監修（R6） ・農地転用の申請許可（R6） ・基本設計の策定（R6）	【成果】 — 【課題】 ・費用対効果を踏まえた施設規模および設備の検討 ・専門性や実績を踏まえた運営主体の検討 ・競技力向上及び競技人口増加に向けた事業計画の検討
	ストリートスポーツを 活用した誘客方法の 検討	（再掲）先進地の視察（大阪府松原市「スケボーのまち まつばら」まちづくり戦略）（R5） ・スケートパークの全体及び各エリアの3D 図面の作成（R6）
効果的なプロモーションの 検討	（再掲）先進地の視察（大阪府松原市「スケボーのまち まつばら」まちづくり戦略）（R5）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
主要施設等の入込数	—	—	—	—	27,000 人

※設計前の見込みであり、設計完了後に再検討

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
施設整備 ■須崎市 ・基本、実施設計、施設整備 □県（スポーツ課、地域本部） ・支援策の検討（高知県スポーツ推進交付金の活用など） 運営体制の構築 ■須崎市 ・運営方法および運営主体の検討 ・教室開催等に係る指導者の確保			設計および整備		
			運営検討		R8 年度オープン 予定 運営開始
			指導者確保		
施設機能の検討・提供 ■須崎市 ・初級者～上級者向けのコースの検討・提供 ・ファミリー層向けエリアの検討・提供 ・レンタル事業の展開や初心者教室の開催 全国規模の大会開催 ■須崎市 ・大会の検討及び開催 ・トップアスリートの招聘			施設機能の 検討・提供		
					教室の開催
					大会の開催
効果的なプロモーション・イベント等の企画・実施 ■須崎市 ・SNS を活用した情報発信方法の検討・実施 ・アートや音楽と連動したイベントの検討・実施 ・周辺エリアへの周遊の仕組みづくり				情報発信方法の検討・実施	
				イベントの検討・実施	
				周遊の仕組みづくり	

高幡地域アクションプラン

分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.19 カツオを起点とした持続可能な観光を主軸とする地域産業の振興 (中土佐町)	
実施主体	◎(一社)なかとさ観光協会、中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社、大正町市場協同組合、中土佐町商工会	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	10 年後も「土佐久礼かつお」の本場としてカツオを食べにお越しいただける町を目指して、町内関係者が連携してカツオによる観光を推進することでカツオ産業を守り、カツオを起点とした持続可能な観光地域づくりを行う。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
受け入れ態勢の強化	・観光拠点施設「ぜよびあ」オープン (H28) →観光拠点等整備事業費補助金の活用 ・黒潮本陣コテージ改修、コテージ遊歩道整備 (R2) →観光施設等緊急整備事業費補助金の活用 ・黒潮本陣本館改修 (R3) →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 ・観光客の利便性向上 (コインロッカー整備)	【成果】 ・体験受入数 R5:1,775 人 ・宿泊者数(黒潮本陣) R5 14,357 人 ・大正町市場入込数 R5 : 405,319 人 ・SNS フォロワー数 Instagram : 6,700 人 ・周遊プランの造成 2 件
土佐久礼かつおのファンづくり	・「かつお祭」など町内イベントの開催 ・土佐久礼におけるカツオを中心とした食体験のインバウンド施策 (R5) →観光庁観光コンテンツ造成支援事業の活用 ・関西圏へのイベント出店 (R5～) ・高知空港中土佐フェア開催 (R5～) ・高知県アンテナショップ (東京・大阪)で「土佐久礼かつおフェア」開催 (R6) ・カツオ授業の実施 (町内小中学校 6 回/年、昭和小学校、椿原中学校、JICA 研修、台湾留学生研修、奥四万十高知研修等)	【課題】 ・周遊促進と滞在時間延長の仕組みづくり ・観光客受け入れ環境の整備 ・関西圏からの集客促進
観光客の町内周遊促進	・食と体験の深掘りと回遊商品開発 (R4) →観光庁看板商品創出事業の活用 ・周遊プランの作成とツアーの実施 (R5) 「昔ながらの漁師町の路地を巡る昭和にタイムスリップコース」 「土佐久礼 NO KATSUO NO LIFE コース」	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)観光施設入込数	476,457 人 (R4)			R8	R9 524,000 人
(2)黒潮本陣宿泊者数	8,529 人※ (R4)				12,000 人
(3)タタキ体験受入数	1,512 人 (R4)				2,200 人
(4)町内事業者へのカツオ販売額	143 百万円 (R4)				157 百万円

※3ヶ月（1～3月）の休業あり

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
観光協会の体制整備 ■(一社)なかとさ観光協会 ・観光案内を強化するための拠点整備の検討及び体制強化（人材確保及び特性に応じた育成、自主事業開発と収益性担保、組織体の拡充等） ・観光客等の利便性向上 ・機能強化（観光客おもてなしのための物販機能の検討や商品開発） □県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供		拠点整備		体制整備・機能強化	
				観光案内情報発信	
		物販機能の検討		お土産商品開発・販売	
関西圏等における PR 活動の強化 ■(一社)なかとさ観光協会、中土佐町商工会 ・関西圏や高知空港などでのイベント・催事による「土佐久礼かつお」のファンづくり □県（地域本部、大阪事務所） ・関西圏で実施されるイベント等の情報提供、支援制度の紹介				関西圏を中心とした県外での PR 活動	
中土佐町を訪問した観光客への PR ■(一社)なかとさ観光協会、地元事業者 ・インバウンドを意識した観光客向けカツオプロモーション ・カツオ授業の実施（小学生、大人、観光客向け）				観光客への PR (観光列車の乗客への PR、カツオ授業等)	
周遊の仕組みづくり ■(一社)なかとさ観光協会 ・中土佐町内の観光素材を周遊する観光コースの提案 （土佐久礼駅、久礼大正町市場、道の駅なかとさ、黒潮本陣、久礼八幡宮、双名島、西岡酒造店、美術館、漁業体験など） ・どぶり高知旅キャンペーンによるツアー商品造成 ・観光客向けのサービス充実（レンタサイクル事業、手荷物預かりサービス） ・中心商店街周辺の駐車場整備に向けた検討 □県（地域観光課、地域本部） ・観光関連支援制度の情報提供				周遊プランの磨き上げ・提供	
				設備整備	設備を活用した周遊促進 (レンタサイクル等)
				駐車場整備の検討	駐車場整備 サービス提供

高幡地域アクションプラン

分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.20 梶原町の体験型・滞在型観光の推進 (梶原町)	
実施主体	◎(一社)ゆすはら雲の上観光協会、梶原町、梶原町商工会、松原まろうど会、坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	梶原町の玄関口である太郎川公園を拠点とし、新たなホテル等の整備と併せて、観光スポットである隈研吾建築群、坂本龍馬脱藩の道や森林セラピーロードなどの滞在型観光や新たな体験プログラムの造成による体験型観光などにより、周遊観光や交流人口の拡大を図っていく。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実	・太郎川公園内多言語サインの設置 (R4) →観光振興総合支援事業費補助金の活用 ・(一社) ゆすはら雲の上観光協会による体験プログラムの造成、ツアー誘致 (R3～) ・久保谷セラピーロードの案内板及びパンフレットを多言語にリニューアル (H30) ・隈研吾建築案内ガイド開始 (R2) ・森林フェスティバルの開催 (R3～) ・四国運輸局「将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業」採択による町内観光資源の調査 (R4) ・自然・体験アドバイザーの活用による案内ガイドの育成 (R4) ・太郎川公園再整備事業は、(一社) 雲の上観光協会を中心としたコンソーシアム (共同事業体) により進めていくことが概ね決定 (R6)	【成果】 ・(一社) ゆすはら雲の上観光協会の設立 (R3) ・太郎川公園再生基本構想の策定 (R4) ・体験プログラムの造成 R5：11 件
誘客活動	・(一社) ゆすはら雲の上観光協会によるパンフレット、映像作品の施策による PR (R4～) ・オーバーツーリズム対策の一環として「パークアンドライド実証事業」を実施 (R5) (四国運輸局) ・カルストエリア 5 市町による連携の取り組み (R4～) ・梶原町産ブドウを使用したワインとカルスト産ゆすはら牛のイベント実施 (R4)	【課題】 ・観光情報発信の強化 ・観光客受入体制の整備 ・町内周遊に向けた取り組み
受入基盤の整備	・隈研吾ミュージアムの整備 (R 元) ・ゆすはら湿性植物園、太郎川公園キャンプ場の整備 (R4) →観光振興総合事業費補助金を活用 ・町内観光地に遊歩道を設置するなど受入体制を構築 (R4) →博覧会受入環境整備補助金を活用 ・森林セラピーロードトイレを新設 (R4) →博覧会受入環境整備補助金を活用 ・太郎川公園再生基本構想の策定 (R4) →産振アドバイザー制度の活用	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)主要宿泊施設宿泊者数	10,335 人 (R4)				14,000 人
(2)主要観光施設入込数	113,131 人 (R4)				120,000 人

※主要宿泊施設：マルシェ・ユスハラ、町内民宿事業者、新たなホテル (R11 年度～(予定))

※主要観光施設：雲の上の図書館

第 5 期計画における行程表					
事業概要			R6	R7	R8 R9
新たなホテルを含む太郎川公園一体整備に向けた取り組み ■梶原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・運営主体、運営方法の検討 ・施設整備と並行し誘客の方法について検討 ・公園内にアクティビティ施設を整備 □県 (地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し					実施設計、工事
新たなレストラン整備にかかる地域食材を活用したメニュー開発 ■梶原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・専門家の導入による地域食材を使ったメニューの開発 ・梶原町産ブドウを使用したワインの活用検討 □県 (地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し				誘客方法の検討	
				地域食材の洗い出し	
				メニュー開発、提供	
観光情報発信力と誘客活動の強化 ■梶原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・体験プログラムの造成 ・専門家の導入による町内周遊プランの作成 ・(一社) 奥四万十高知と連携した観光情報発信及びインバウンド等への誘客活動 □県 (地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し				町内周遊プラン作成	
				観光情報発信強化	
拠点観光施設スタッフの人材育成と町内事業者の受入態勢整備 ■梶原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・第二種旅行業登録 ・拠点観光施設、拠点宿泊施設から町内への波及を目指し町内事業者間の連携を推進 ・町内宿泊事業者の受入態勢の整備 □県 (地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し			町内事業者への聞き取り		町内連携の検討
				専門家を導入したスタッフ研修	

高幡地域アクションプラン

分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.21 津野町まるごと体感！観光推進プロジェクト (津野町)	
実施主体	◎津野町	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	四国カルスト天狗高原や四万十川源流点、風の里公園、セラピーロードなどを中心とした観光資源と歴史や伝統文化、地域の食や体験プログラムなど津野町をまるごと PR し、年間を通じて多くの観光客の集客を図り、地域経済の波及効果につなげていく。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
観光資源を生かした 魅力づくりの推進	・星空観察会や植物観察会の実施 ・観光キャンペーンと連動したイベントや体験プログラムの磨き上げ・拡充、モニターツアーの実施 ・おんぱく手法を活用した津野町体験キャンペーン「つのつねづね」の実施（R2～） ・E バイク整備（R3） ・プラネタリウムを活用した宿泊プラン造成（R4～） ・津野町観光振興計画の策定（H30） ・第 2 期 津野町観光振興計画の策定（R4）	【成果】 ・四国カルストの入込客数の増加 H30：70,206 人 →R4：176,989 人 →R5：174,935 人 ・つのつねづね体験プログラム数 R5：12 R6（夏）：10 R6（冬）：14 ・四国カルスト広域連携推進協議会の設立（R5）
観光基盤の整備	・四国カルストエリアや四万十川源流点エリアの観光施設等整備 フォレストアドベンチャー・高知オーブン（R2） 天狗荘が星ふるヴィレτζ TENGU としてリニューアルオープン（R3） せいらんの里が移転リニューアルオープン（R3） カルスト学習館がカルストテラスとしてリニューアルオープン（R4） 自然探勝区の整備（R4.2～9）、キャンプ場エリア再整備（R4）	【課題】 ・人材不足 ・閑散期（冬季）対策 ・観光資源の磨き上げ ・宿泊キャパシティアップ ・効果的な情報発信 ・観光ガイドの育成とスキルアップ ・四国カルストの入込を町内へ波及させる仕組み
戦略的な情報発信	・ホームページ、SNS（Facebook、Instagram）等での情報発信 ・マスコミ、ラジオ、CM での情報発信 ・トゥクトゥク定期周遊の実施 ・Instagram ハッシュタグキャンペーンやスタンプラリーの実施	
魅力を伝える人材の育成と観光推進体制の構築	・観光振興における地域おこし協力隊の導入（R1～R3） ・観光ガイド研修会の実施 ・（株）五藤光学研究所との包括連携協定締結（R2） ・地域活性化起業家の起用（R3～R5） ・星のソムリエ養成講座の実施（R3） ・四国カルストエリア 5 市町による広域連携会議の実施（R2～R4） ・四国カルストエリア広域 5 市町による包括連携協定締結（R5.3）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)主要観光施設入込数	414,146 人 (R4)			R8	R9
(2)主要宿泊施設宿泊者数	13,946 人 (R4)				456,000 人
(3)観光消費額	338,000 千円 (R4)				15,800 人
					385,000 千円

※入込数：「星ふるヴィレτζ TENGU」、「風の里の駅」、「道の駅布施分坂」、「吉村虎太郎邸」、「フォレストアドベンチャー・高知」、「カルストテラス」
※宿泊者数・観光消費額：「星ふるヴィレτζ TENGU(キャビン・テンガロー含む)」、「遊山四万十せいらんの里」、「森の巣箱」、「葉山の郷」

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
自然や歴史、伝統文化を生かした魅力づくり		イベントやプログラム検討			
■津野町		提供開始			
・四国カルスト、星、四万十川源流点など豊富な観光資源を楽しめる機会の提供		コンテンツ磨き上げ			
・津野山古式神楽や龍馬脱藩の道など伝統文化や歴史を体感できるイベントやプログラムの開発					
・日常の暮らしや遊び、伝承されてきた食文化を体感できるコンテンツの造成					
□県（地域本部）					
・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案					
安心・安全な受入環境の整備		町内施設の調査			
■津野町		受入環境整備			
・多言語パンフレットの制作、決済環境の整備などインバウンド観光の推進		アウトドアコンテンツ・簡易宿泊所や民泊事業の検討、見直し			
・アウトドアコンテンツの開発、延泊等受入や宿泊キャパシティ増に向けた検討					
□県（地域観光課、地域本部等）					
・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し					
ターゲットや目的に合わせた情報発信と周遊につなげる取り組み					
■津野町		誘客のための情報発信の充実			
・オープンデータの活用、観光客へのアンケート、ヒアリング調査、モニターツアー		周遊につながる企画の実施（スタンプラリー、インスタグラムキャンペーン等）			
・ホームページや SNS、マスコミを通じた情報発信、スタンプラリー等の実施					
□県（地域本部）					
・広報支援、各種支援制度の情報提供					
観光関連事業者のおもてなし力の強化					
■津野町		観光ガイドの育成、スキルアップ			
・事業者間の連携強化、ガイド育成、スキル向上のための講習会の実施					
・地域の特色を生かした料理メニューの検討・提供					
□県（地域本部）		魅力的な料理メニューの検討・提供			
・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し					
広域観光組織と連携体制の強化					
■津野町		近隣市町と連携した広域での取組			
・（一社）奥四万十高知や四国カルスト広域連携推進協議会との連携					

高幡地域アクションプラン

高幡地域アクションプラン		分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.22 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり (四万十町)		
実施主体	◎ 四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外		
AP への位置づけ	H21. 4 月		
事業概要	四万十町の観光拠点として「海洋堂ホビー館四万十」のブラッシュアップを図るとともに、四万十川流域の豊かな自然や食、伝統文化など四万十町の魅力ある資源を組み合わせ、周遊促進やインバウンドの誘致など、地域と連携を強化して交流人口の拡大を図る。		

主な取り組み	これまでの主な動き	主な成果・課題
ミュージアム機能の強化	・(株)海洋堂との連携により、廃校となった小学校を活用し「海洋堂ホビー館四万十」の整備 (H22)、開館 (H23) →産振補助金の活用 ・誘導案内看板や第2駐車場の整備、臨時駐車場の設置 (H24～26) ・第2駐車場内への簡易水洗トイレの設置 (H28) ・ホビー館の休憩施設、販売スペース等の拡充に伴うリニューアル (R3) →地域観光振興交付金の活用 ・各種企画展の開催 (H23～) ・全国初のミュージアム列車ホビートレインの運行 (H23～) ・たにんごや (ホビー館に隣接した地元住民による食堂) オープン (H23) ・打井川バイパスの開通により大型観光バスの乗り入れが可能となった (H27) ・ホビートレインを「かつばうようよ号」へリニューアル (H28) ・インバウンド商談・オブショナルツアーのPR (H29) ・経済波及効果算出と今後の目標策定支援 (R3) →産振アドバイザー制度の活用	【成果】 ・常勤雇用者数 R5: 6人 ・累計入館者数 50万人達成 (R4年8月) 【課題】 ・来館者の満足度アップの為に仕掛けづくり (滞在時間の延長) ・集客力のある企画展・町周遊企画の開催 ・さらなる誘客促進及びリピーターの確保
関係機関と連携した集客力の向上	・「海洋堂かつば館」のオープン (H24) ・ホビー館とかつば館の連携した企画展の開催 (H24～) ・「海洋堂 Space Factory なんごく」と連携した企画展の開催 (R4～)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
ホビ－館年間入場客数	2.7万人 (R4)				5万人

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
ミュージアム機能の強化及びPRの充実 ■(株)奇想天外 ・魅力ある企画展やイベント等の開催 ・予土線を活用した集客とPR ・オリジナルキャラクター（うまのすけっぴ等）を活用した広報 ・オリジナル土産物商品開発・販売、広報・営業活動 ・SNS等を通じた情報発信の強化 ・食事提供システムの検討・導入（たにんごやの活用など） □県（地域本部等） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し				企画展の開催 オリジナルキャラクター を活用した広報・営業 オリジナル 商品の開発
関係機関と連携した集客力の向上 ■(株)奇想天外 ・滞在時間の延長を促す仕組みづくり ・南国市等との周遊企画の展開 ・地域等との連携（観光協会、(一社)奥四万十高知、大正地域観光推進協議会等） □県（地域本部等） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し			地域と連携した食事の検討・提供 南国市や地域との連携強化 連携企画及び周遊プランの検討・提供	

高幡地域アクションプラン

高幡地域アクションプラン		分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.23 ～しまんとがわのまんなか～四万十町観光交流促進事業 (四万十町)		
実施主体	◎ 四万十町、(一社)四万十町観光協会 等		
AP への位置づけ	H23.4 月		
事業概要	四万十町の山・川・海の豊かな地域資源がづくりあげた景観や歴史、文化等に磨きをかけるとともに、ものづくりや食を中心としたまちづくりを進めることで、四万十町流域での滞在型観光を推進する。		

主な取り組み	これまでの主な動き	主な成果・課題
受入態勢の充実・整備	取り組みの内容 ・ヤロチヨウナイチャセンターオープン（H26） ・打井川バイパス開通（H27） ホビー館への大型バス通行可 ・「2016 奥四万十博」関連 イベント/体験プログラム造成（H28） ・自然体験型観光キャンペーン関連 町内施設整備や体験プログラム造成（H29～） ・新型コロナウイルス感染症対策「奥四万十じも旅キャンペーン」開催（R2） ・総務省「地域活性化企業人」制度を活用した観光メニューの造成（R3～5） ・総務省「地域力創造アドバイザー」の導入による観光施設の磨き上げ（R4～）	【成果】 施設等利用者数 R5：77.4万人 【課題】 ・観光資源の磨き上げ及び滞在時間の延長 ・周遊ルートの造成と情報発信の強化
観光資源の造成・磨き上げ	・四万十南予横断ツーリズムライイドの開催（H24～） ・四万十川ジップラインのオープン（R2） →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 ・ホビー館のリニューアル（R3）→地域観光振興交付金の活用 ・三島キャンプ場のリニューアル（R5） →地域観光振興交付金の活用 ・四万十オートキャンプ場ウェル花夢グランピングの整備（R5） →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 ・ふるさと交流センター整備計画基本構想策定（R6） →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用	
情報発信力の強化	・「2016 奥四万十博」JHPへの情報掲載（H28） ・町内主要施設5箇所への看板設置（H28） ・窪川まちなあるきガイドコースへの看板設置（H30） ・四万十町公式SNS（Instagram、LINE@など）の開設（R2） ・四万十町観光協会HP改修（R3）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
施設等利用者数※	78.3 万人 (R4)				82 万人

※町内宿泊施設及び主要観光施設の利用者数

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
観光ガイドの充実、周遊ルートの造成 ■ 四万十町、(一社)四万十町観光協会 ・草花ガイドの育成、植物観察ツアーの企画 ・民泊の受入検討、インバウンド環境の整備 ・四万十川流域での文化、景観、食、ものづくりを生かした周遊ルートの作成 □ 県 (地域本部等) ・産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供				草花ガイド育成、ツアー開催
観光資源の造成・磨き上げ ■ 四万十町、(一社)四万十町観光協会 ・町有観光関連施設の整備・磨き上げ、自然や文化、食を生かした体験プログラム造成・磨き上げ □ 県 (地域本部等) ・産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供				体験プログラムの造成・磨き上げ
情報発信力の強化 ■ 四万十町、(一社)四万十町観光協会 ・道の駅等拠点との連携や SNS 等を活用した効果的な情報発信 ・「花とみどりのまちづくり」による PR □ 県 (地域本部等) ・関係機関との橋渡し				四季折々の旬な情報発信

高幡地域アクションプラン		
分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.24 四万十町観光交流拠点施設の整備 (四万十町)	
実施主体	◎四万十町	
AP への位置づけ	R2.4 月	
事業概要	高速道路の延伸を見据え、窪川中央インターから窪川地区、大正地区、十和地区への交流人口の拡大など人の流れをつくるため、花などをテーマとした全町的な展開で、事業・拠点施設整備を実施することにより、新たな観光客等を含め町内での滞留・滞在を推進する。また、町内への周遊促進による商工・観光事業者の所得向上と地域の活性化につなげる。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
受入体制の充実・整備	・奥四万十博関連イベント/体験プログラム造成（継続） ・大正・十和まちづくり推進協議会における植栽活動（継続） ・自然体験型観光キャンペーン関連 町内施設整備や体験プログラム造成（H29～） ・インバウンド観光推進事業（H30～） ・花とみどりのまちづくり推進事業（R5～）	【成果】 ・基本計画及び基本設計の策定
観光交流拠点施設の整備	・観光拠点施設等整備事業（継続） ・こいのぼり公園再生整備事業（R 元） ・四万十川アドベンチャーパーク整備事業（R 元～）（ジップライン） ・基本構想策定に向けた実行可能性調査の実施（R2）→産振補助金の活用 ・基本計画及び基本設計の策定（R4）→産振補助金の活用 ・住民説明会の開催及び意見公募の実施（R5） ・基本計画及び基本設計の再策定（R6）	【課題】 ・魅力的な拠点施設の整備 ・効果的な運営体制の構築 ・観光資源の磨き上げ、町内全体への周遊促進及び滞在時間延長による地域経済への波及
周遊、滞留・滞在型観光の推進	・奥四万十観光磨き上げ事業の実施（継続） ・幕末維新博連携事業の実施（H29～30） ・自然体験型観光キャンペーン関連事業の実施（R 元～） ・町内各事業所と連携した町内周遊企画の実施（R 元～） ・観光列車活用事業（R 元～） ・観光博覧会「牧野博士の新休日」関連事業の実施（R4～）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
道の駅集客数※	40.5 万人 (R4)				49.7 万人

※道の駅あぐり窪川、道の駅四万十大正、道の駅四万十とおわ

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
受入体制の充実・整備 ■ 四万十町 ・観光交流拠点の活用・運営等に関する関係団体等との協議・連携 ・町内各地の花をテーマとした施設の整備や既存の取り組みの磨き上げ □ 県（地域本部等） ・受入体制充実のための産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供			関係団体等との協議		施設を活用した取り組み
実施設計の策定 ■ 四万十町 ・意見公募の結果を反映した計画等の見直し、拠点施設の実施設計策定 □ 県（地域本部等） ・関係機関との連携・調整、各種支援制度の情報提供				計画 見直し	実施 設計
施設整備 ■ 四万十町 ・施設整備及び運営開始 □ 県（地域本部等） ・各種支援制度の情報提供					施設整備及び運営
情報発信力の強化 ■ 四万十町 ・道の駅等拠点との連携による情報発信、町内周遊観光促進事業の実施 □ 県（地域本部等） ・周遊促進・長期滞在型観光の推進にかかる産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供					情報発信、観光資源の磨き上げ
					周遊観光の取り組み